

2021～2022 年度 第 1 回 一般社団法人神奈川県建築士事務所協会 統括委員長会 議事録			
開催日時	令和 3 年 4 月 27 日（火）	会 場	Web 会議
出席者 （×欠席）	会長 白井勇 副会長 福田亮一 西倉哲夫 小澤勝美（欠） 大和田優 小林幸一 山口英生 総財務委員長 三村邦彦 戦略企画委員長 鈴木武昭 業務支援委員長 永島優子 広報情報委員長 杉本勝郎 指導委員長 山口雄 ブロック支部委員長 谷田康司 専務理事 酒井弘幸 事務局長 磯部崇 事務局 小林恵美		
○白井会長挨拶 新しい年度となり、今日は総会の事と一部の委員会の進め方について要望も出ているため、その件について話しをして。また、各委員会から意見があれば出してほしい。 ○司会進行 山口副会長 前回議事録を、各自事前に配布された資料により確認された。 議題 1.（景観・まちづくり特別委員会）『メールマガジンの運用』について 景観・まちづくり特別委員会より戦略企画委員会へ提出され・検討した事について、鈴木戦略企画委員長より説明がされた。 →発行する事は問題がないが、下記の内容を踏まえた内容にするよう、景観まちづくり特別委員会へ回答した。 ①文責を明記する。 ②万が一を考えて会長権限でメルマガの緊急停止を行える事とする。 ③他の委員会でメルマガを発行する際に流用可能なシステムとして設計する。（要望） <意見等> ・委員会からの要望の決め方に関して、今回のこの内容については理事会にかけると考えるが、今後このような案件が増えてくると思う。その時の運用方法を考えたい。統括委員長会は決定機関ではないといつも話しが出るが、そこはある程度の裁量を持ち調整をする役割と考えていただき、進めていきたいと考える。今までも、戦略企画委員会で一度検討し、統括委員長会に提出していただいていたが、今後もこの形で進めていきたい。 こういう内容を逐一理事会に提出するのはどうかと考える。外に出すものと考えれば、理事会に諮る必要もあるのかもしれないが、いかがなものか。（白井会長） ・外に出すといっても限定された先（登録者）に出すものなので、理事会にまでかける必要はないのではないかと。（大和田副会長） ・情報発信についての考えかたについては、どこかでまとめる必要があると考える。 今回については、限定された先との事でこのまま進めていただいて良いと考えるがどうか。（白井会長） ・今回のメルマガ発信について賛成です。景観・まちづくりの活動については、建築士としての活動の原点なのかもしれないと考える為、会員の方には知っておいて欲しいと考えている。（福田副会長） ・景観・まちづくり特別委員会では、イベント（見学会）等に参加された方（会員外含む）にも、配信したいと考えている。その場合でも、配信先は限定された先の為、運用は問題ないとする。（鈴木戦略企画委員長） ・この間、景観・まちづくり特別委員会で見学会を行った。参加者 42 名で、行政が 10 名、会員外 5 名だった。その際行ったアンケートで、今後も情報が知りたいとの声が多かった。また、メルマガの内容は活動報告が主な事となる。（杉本広報委員長（景観・まちづくり特別委員会副委員長）） ⇒要望等含め、杉本広報情報委員長（景観まちづくり特別委員会副委員長）が委員会へ持ち帰り、進めていただく事となった。 2.（同好会設立）『省エネ性能研究会』（略称：エネ研）について 発起人（代表者）の大和田副会長より、設立について趣旨の説明がされた。 省エネについて性能価で出す事は建築士として 100%やっていかなくてはならない社会情勢である。また、省エネ法改正にあたって講習会が数多く開催されているが、業務に直接結びつく講習会がない。			

以上の事等から、YKK のフリー計算ソフトを活用し施主への説明の技術を身に着ける事や、2030 年度には新築は全て ZEH 仕様となる事に対応できるスキルを身に付ける等のために、同好会を設立する。
また、取り纏め整理し、WEB 講習（4 部構成）を作成し、成果物を神事協会員へ還元する。（還元方法としては、売る事も考えている。）
なお、ZEH 対応のオリジナル標準仕様書を作成する事を最終的な目標としている。
現在会員は藤沢支部会員のみとなっているが、認定されれば、積極的に広報し他支部の方も加入していただきたいと考えている。

<意見等>

- ・趣旨等は賛同できる。ただ、同好会名の頭に『神事協認定』となっているが、なにかあった時にどこが認定したのか等、問題が起こるのではないかと。他の方の意見も聞きたい。（杉本広報情報委員長）
→同好会は神事協の認定を受けるので、あえて付けた。外してもかまわないが、会員の方が受ける印象がかなり違うのではないかと。思う。（大和田副会長）
- ・技術専門委員会との位置づけや、対賛助会との考え方はどう考えるのか。（山口副会長）
→認定後には、賛助会に対してもアクションを起こし、技術提供を行ってもらう予定。メンバーにも入っていただきたいと考えている。
技術専門委員会に関しては、2 カ月に 1 度の活動となっている為、難しい事もある。同好会では集まる頻度を上げ、出れる時・出れる人だけで、その際のテーマに興味ある部分に特化しやっていく事で、同好会の方が活動しやすいと考えている。（大和田副会長）
- ・入口として同好会から入り、専門委員会・特別委員会に発展する事も将来的には考えられる。
名称については、認可基準にあっていなければ見直さなければならぬ事を承知の上で付けられていると理解している為、『神事協認可』と付ける事も問題はないと考える。（白井会長）
- ・神事協の同好会活動があまり知られていない事から、同好会の告知も含めて設立したいと考えている。（大和田副会長）
- ・名称の『同好会』と『研究会』の違いは。また委員会とのすみ分けはどう考えるか。（西倉副会長）
→『同好会』の名称として『研究会』を付けている。（大和田副会長）
→会員の受け取り方に誤解がないように、説明・アナウンス等が必要なのではないかと。（西倉副会長）
→広報する際に、説明を付けて出すようにすれば、問題はないのではないかと。（山口副会長）
→戦略企画委員会でも、同好会設立についての周知方法までは検討していなかったが、設立届をそのまま出す方法がわかりやすく良いのではないかと。（大和田副会長）

⇒『[神事協認定]省エネ性能研究会』（略称：エネ研）が神事協同好会として『認定』された。

3. 次年度の各委員会の方向性について

白井会長より、次年度の各委員会の方向性について説明があった。

（案）として出されていた機構図に関しては白紙となった。

各委員会の在り方としては、現在委員を推薦していただいているが、その中で委員会の形だけは確認しておかなくてはならない。下記の考え方を持って進めていき、理事会へ提出したいと考えている。

- ・総財務委員会・指導委員会・ブロック支部委員会・業務支援委員会については、現状のまま運営する。
- ・戦略企画委員会については、別の形にするという意味もあり、終了する。
- ・広報情報委員会については、会報誌を出す部門と SNS 等で情報発信をしていく部門に分け運営する。会報誌を出す部門は特別委員会とする。
- ・青年部会運営委員会については、今後在り方も含め検討していく。

（杉本広報情報委員長）

- ・今までの職責は会報誌発刊だったが、今後はより拡大・前進した広報情報委員会としていきたい。中身としては、配信した動画で言っていた事だが、よりスタッフ的なものを充実しなければならない。活動方針並びにスタッフの人选を主眼としてやっていきたい。
会報誌も、とても重要なものと考えてる為、編集委員会として引継ぎがきちんとされていくように、助力をしていきたいと考えている。

（山口青年部会運営委員長）

- ・青年部会運営委員会は、主だって実績をあげられなかった。特定の人間が楽しむ活動は避け、広く青年にとって意味のある委員会を作る事を目指し、参加しやすいテーマ・イニシャルコストを考えたが、コロナ禍に対応する事が出来なく、委員会としての活動が出来なくなった。
今後は、一から立て直し、組み立てを考えていきたい。
私論として、委員会を特別に作るのではなく、各委員会に青年部会対象年齢の方が所属し青年部としての視

点を持ち、各委員会の活動をしていただいた後、青年部会としてのアウトプットを考えていく。

→・青年に所属できる年齢の方が委員とは別に委員会に所属するとの事なのか。また、その選任の仕方はどう考えているのか。(谷田ブロック支部委員長)

→対象年齢の方は、全員部会員だという事を周知していかななくてはならない。(山口青年部会運営委員長)

→その事を自覚していない部会員が多いと思う。また周知していく事も大変だと考えるが、今後の周知方法としては、どのような方法を考えているのか。(谷田ブロック支部委員長)

→私案だが、対象となる方のリストアップはしてあるので、それぞれのブロック等の運営委員に周知方法は委ねたいと思っている。いずれにせよ、対象の方に周知は行っていく。また、入会するタイミングでの会（同好会含む）の活動等の周知は行っていきたい。

・白井会長より本会が推薦できる理事（案）についての説明があった。

<意見等>

・新機構（案）が白紙になったというのは少し聞いているが、今回説明された委員会についても現在の機構図の内容とかなり変わっているが、今回も資料は何もないのか。(山口指導委員長)

→機構（案）は白紙にしたので、基本的には元に戻り現行のままと考えている。(白井会長)

→戦略企画委員会がなくなるとの事だが、定款施行細則の変更を理事会で承認を得なければならないのでは。
(山口指導委員長)

→戦略企画委員会と広報情報委員会の変更を理事会へ提出しなければならない。(白井会長)

→次回理事会で、その資料が出てくると考えてよいのか。(山口指導委員長)

→次回理事会で、資料を出す。(白井会長)

4. (神奈川県森林再再生課依頼) かながわ木造・木育アドバイザー事業への対応について

福田副会長より、『かながわ木造・木育アドバイザー事業』についての説明が、資料を用い行われた。

神事協から数名のアドバイザーを派遣・登録し、神事協をアピールしていきたいと考えている。

アドバイザーの人は選は私案だが、木造専門委員会から2名・「住・緑・家」運営特別委員会から2名・各ブロックから1名と考えている。

<意見等>

・県の予算との事だが、政令指定都市の扱いはどうなっているのか。(永島業務支援委員長)

→人口により予算の配分が決まっている為、横浜・川崎等は予算が多くあり、色々な事業が既に始まっている。支部で関わっている事業がある事も承知している。そこに関しては神事協で動くつもりはない。

その他の市町村に関しては、これをきっかけにシアピールしていったほしいと考えている。(福田副会長)

・川崎支部では既に川崎市から委託を受け、相談窓口を設置しており予算もつけてもらっている。木育部会としてフォーラムもある。(永島業務支援委員長)

・今回のアドバイザーについては、公共が中心である。(酒井専務理事)

5. 八王子アパート階段崩落事故について

白井会長より情報提供され、会員に会員メールにて注意喚起を行ったとの報告があった。また、今後の展開を注視するよう話があった。

山口指導委員長より委員会内での対応策をまとめる為、緊急の委員会を4月30日に開催するとの報告があった。

6. 委員会報告

〈業務支援委員会〉

・先程、次年度の委員会の話があったかと思うが、業務支援委員会では神事協講習会の年間スケジュールを作り、戦略的に講習会の内容を決めていく話をさせていただいている。

資料の『講習会カテゴリー（案）+専門委員会』を作っている。現在は全くのたたき台の状態。意見があればお寄せいただきたい。

マンション等の大規模修繕業務特別委員会では、『マンション等の大規模修繕業務報酬算定方法』を作成している。現在たたき台の状態だが、お目通しいただきたく資料として付けている。

藤沢市のマンションの管理組合から、委員会にアドバイザーの依頼があり、建事協（（一社）かながわ建築事務所協会）で動いており検討している。(永島業務支援委員長)

→災害時相談員育成勉強会をシリーズ化すると考えている件の考えをお聞かせいただきたい。

(谷田ブロック支部委員長)

→追加したいと思います。(永島業務支援委員長)

→配信された動画（神事協の「新しい方向性（案）について」）の中で、業務支援委員会が講習会をまとめ

ていくとの事だったが、それが生きている中での話しなのか。

今まで、業務支援委員会ではそういった事はやってこなかったが、動画の中で話されている方向性で進めていくという解釈でいいのか。(山口指導委員長)

→今まで通りというのは、今までのように総会で新たな理事が選出されてから第1回目の理事会(年度としては第3回)の場で、その年度の活動方針は決まっていた。タイムスケジュールとしては、そのようになる。今ここに在る者がそのまま今の立場でいるわけではないので、方向としての申し送りとして、このような考え方でやっていただければとの事。新たな理事が総会で承認された後、発表するとの流れとなる。(大和田副会長)

→新しい体制が決まったところで、再確認して活動していただく事となる。(白井会長)

→業務支援委員会がまとめるだけではなく、講習会の内容を整理した方がいいというのは、業務支援委員会の中でも意見が一致している。戦略的に委員会同士、整理させていただきたい。業務支援委員会が各委員会に、この講習をやってくださいと考えているわけではない。

神事協がこのような形で対処・対応してる事を外部に見せていくことも一つあると思う。その為の整理でもある事も理解していただきたい。(永島業務支援委員長)

→引き続き議論しながら組み立てて進めていくと考えている。(山口副会長)

〈ブロック支部委員会〉

- ・新規開設講習会だが、受講すると入会金無料になる特典もあるため、開催日の問い合わせがいくつか来ている。令和3年度の初回開催日は6月21日(月)を計画し進めている。支部等で開催日の質問等があれば、お答えください。(谷田ブロック支部委員長)

7. その他

- ・BIMのセミナー(入門編)開設者向けを日事連の委員会で作成した。これから専門家向けの第2弾を作成する予定。どこかで、使用した講習会を開催してはどうか。(白井会長)

→IT補助金が出るタイミングをはかり、事務局で対応する事となった。

- ・総会については、今のところロイヤルホールヨコハマで行う事となっているが、予定通りでいいのか。
(三村総財務委員長)

→今のところは、予定通りだが、状況によっては変更する事もある。(大和田副会長)

- ・黒岩知事の県政報告会がweb配信で行われ小澤副会長1名が出席する事となったが、web配信のやり方等の情報収集の為にもう1名程度出席してはどうか。(三村総財務委員長)

→事務局で情報を集め連絡する。(白井会長)

以上

2021～2022 年度 第 2 回 一般社団法人神奈川県建築士事務所協会 統括委員長会 議事録

開催日時	令和 3 年 8 月 2 0 日 (金)	会 場	Web 会議
出席者	会長 白井勇 副会長 大和田優 山口英生 杉本勝郎 永島優子 山口雄 (欠) 小松正道 総財務委員長 三村邦彦 業務支援委員長 小山美智恵 広報情報委員長 鈴木武昭 ブロック支部委員長 平野武洋 指導委員長 齋藤清 専務理事 酒井弘幸 事務局長 磯部崇 事務局 小林恵美		

○白井会長挨拶

新しいメンバーになってからの初めての統括委員長会となる。後ほど統括委員長会の役割等を説明するので意見等を出していただきたい。

直前に行われた日事連の正副会長会で、今年度の全国大会の中止が決定した。後ほど、事務局より支部・会員へ周知させていただく。今年度の開催地である熊本会の準備も進んでおり、来年度開催予定地の島根・鳥取会の準備がそれほど進んでない事から、熊本会開催を来年度にスライドする事となりそう。最終決定は 9 月となる。

また、新型コロナウイルスの勢いが収まっていない為、委員会活動が難しい状況が続くが、web 等を使用し出来る範囲で進めていってほしい。

先程行われた正副会長会で、組織についてある程度話しをした。みなさんの意見を踏まえて、今後の委員会活動をどう進めていくかを、本日は中心として進めていきたい

○司会進行 山口英生副会長

前回議事録を、各自事前に配布された資料により確認された。

議題

1. 統括委員長会のあり方

白井会長より定款施行細則を基に概要及び今後の統括委員長会のあり方についての説明がされた
 <概要>

定款施行細則 23 条

- 一 本会が発展・継続していくために必要な中長期に渡る事業等の検討に関する事項
- 二 事業計画、事業予算の総合調整
- 三 各委員会の連絡協議と情報交換
- 四 各委員会の業務を計画的・効率的に実施するための調整
- 五 正副会長から付託された事項
- 六 その他必要な事項

2 統括委員長会は、会長、副会長、専務理事、常務理事（現在空席）、常設委員会、指導委員会、青年部会運営委員会の委員長で構成する。

3 統括委員長会は、必要に応じて、会長が招集し主宰する。

※おおよそ理事会の開かれない月に行っており、理事会にかけの事項についてあらかじめ議論している。

4 統括委員長会は、必要に応じ、特別委員会、専門委員会の委員長及び理事等の出席を求めることができる。
 <あり方>

定款施行細則を基に概要を説明したが、今後この形でいいのかを検討していきたいと思っている。

委員会が単独で動く则会がバラバラになってしまう為、総体的に委員会活動全体を調整する必要がある。

正副会長会には本会の基本方針の策定が役割としてある。全て理事会で決めるのは困難な為、基本方針を基に基本的な事は執行部が考えていく必要がある。

中長期に渡る事業等の検討及び各委員会の調整は、しっかり理解いただき進めていただきたい。

一般社団法人化の際に統括委員長会は作った。その前の委員会活動は、会員同士の親睦が主の目的であり、会も同業仲間の会の色合いが濃かった。一般社団法人化に伴い事業をしっかりとやっていかなくてはならないと考えている。

統括委員長会は報告会ではなく、課題を議論する場としていきたいと考えている。

2. 今年度の委員会活動について

各委員会の委員会活動についての考え方等について話しがあった。

＜齋藤指導委員長＞

白井会長の仰る戦略を十分理解した上で話すが、根本的に神事協は会員からの会費で成り立っている会である事を大前提で考えると、会の運営は会員による会員の為である事を各委員会は考えるべき。こういった非常事態の中で、今各委員会がやらなくてはならない事は、会員の不安を払拭する活動あるいは提案が最善の課題であると考えている。それぞれの委員会は会費を払っている会員の為に活動している事を大前提にすすめていると解釈していた。

→＜白井会長＞

この状況の為、その考え方の比重が強まっていると思うが、全体としての会のあり方・会の姿を見ている人もいる。両輪になるかはわからないが、会員が言われている・望まれている事をやらなくてはならないし、不安を払拭する事も考えなくてはならない。それが同時に楽しさに繋がったり、仕事に繋がる事もあるかもしれないが、一方で会の全体像のあり方も見せていかなくてはならない。それは、特定のある部分の方々が他の全部の方に奉仕するだけでは、関わってくれる人が面白くないし負担ばかりがかかってしまう。ここは同時に必要なのではないかと考えている。

＜三村総財務委員長＞

昨年度は HP からの新入会申込みや、理事会や委員会の出欠確認をマイクロソフトフォーム[®]で出来るようにし、デジタル化を進めた。

今年度は、例えば入会時3ヶ月会費無料等で『入会促進に係る会費の取扱いについて』を進めていきたいと考えている。

また、支部財産が積みあがってきている事から支部特定資産の創設を考えている。

→＜白井会長＞

日事連から新入会1事務所ごとに1万円入る事が9月に決定する予定。その扱いを総財務の方で考えていただきたい。

→＜齋藤指導委員長＞

会費を3ヶ月間無料等ではなく、今までの有料でやっていた講習会の録画講習を見放題にするとか、考えていく事はできないか。

また、予算が余っているのであれば、PC関係の設備が出来てないところに期間を区切って（半年とか1年間）タブレットを貸し出すという方法もあるのではないか。

＜小山業務支援委員長＞

まだ委員会は始まっていないが、永島前委員長から引き継いだ継続していかなくてはならない事をやっていきたい。

各委員会の連携が業務支援として重要だと考えている。これからの1年間の流れと事業の担当を決め進めていきたい。

＜永島業務支援担当副会長＞

委員会の開催はまだだが、担当副会長・委員長・副委員長で今年度の委員会の進め方等の前打合せを行った。『講習会の年間スケジュールの作成・講習会のカテゴリーの検討』を昨年度から検討課題として進めており、カテゴリー（案）を作っている。

カテゴリーとして、分野別・構造別・用途別で分け、一方的に担当委員会（賛助会）を振り分けているので、各委員会で確認いただきたいと思っている。

各委員会が企画する講習会を当てはめる事によって、カバー出来ていない分野もわかり、同じような内容にならないように整理する事が出来る。同じような内容であれば、委員会同士が連携を組んで共同で企画する事が出来るのではと考える。

また、表を整理する事によって、各会員事務所が『強化していきたい・掘り下げていきたい』内容の方向性がわかり、受講すべき講習会や注目していく委員会がわかってくるのではないかと考えている。

制度の作り込みに関しては、各委員会のご協力をいただきたい。

もう一つの検討課題として、ホームページを外部にどう見せていくか（見せ方）がある。会員増強にも繋がる大事な課題と考えている。広報情報委員会との連携も考えている。

→＜山口英生副会長＞

先程の提案、入会検討の方がアーカイブス講習会を見れる事にも応用でき繋がってくると思う。

＜鈴木広報情報委員長＞

前回戦略企画委員会で検討していた内容を、実行する事がメインなのかと考えている。

旧広報情報委員会（紙ベースの会報誌）とホームページを繋ぐ役目もある。

ツイッターをまめに更新する為に、各支部から時事的（建築に関係ないものでも可）な事を発信してほしい

と考えている。その為に各支部から必ず1名の委員を出してほしいと希望する。

→<三村総財務委員長>

各支部から一人との事だが、現在各ブロックからの推薦となっている。ブロックから数人出ても良いとの事なのか。

また、ツイッターの為にだけに支部から一人と考えているのか。

→<鈴木広報情報委員長>

ブロックから一人に限らずと数人でも良いと考えている。

ツイッターの為にだけでなく、他の事についての意見をくみ取る為にも各支部から出してほしいと考えている。

また、パソコンに苦手な人でも今回覚えていただければよいと思っている。

<平野ブロック支部委員長>

新旧委員会は来週開催となり、今後の活動は委員全員の意見を抽出し行っていきたいと思っている。

昨年もコロナの影響で活動が難しかったが、新規開設講習会についてはweb開催の方が盛況のイメージがある。今年度も、あと3回開催を予定している。

『しごと展』等の開催に係る各支部への補助金交付について、総財務委員会と調整し、内容を改めて各支部（ブロック）に募る。

スポーツ大会については、次回理事会にて開催・中止を決めるが、昨年に引き続き2年連続県西支部にご担当いただき負担を強いている。延期・中止になった場合は、来年も県西支部にご担当いただくか、他ブロックにさせていただくか検討していく。

次回委員会で、現在1名の副委員長をもう1名選任し2名に増員する予定。

また委員会活動は、各会員の方の意見がベースになるのは当然であり、それができる立場であると思っている。

<齋藤指導委員長>

会員による会員の為に何が出来るかと考えた時に、指導委員会は業務を行う上の『転ばぬ先の杖』になりたいと考えている。業務を行う上では消費者から訴えられる等のリスクがある。万が一、あつてはならないケースに遭遇した時に、手を差し伸べる組織であるのかも課題だと考えている。

調査報告業務が増えてきていると感じている。きちんと利益を取れる業務となる為、会員のフォロー等が出来るように活動していきたい。

白井会長には日事連へ行かれているので、全国レベルで事務所協会の存在をPRしていただき、会員の業務に結びつけるようにお願いしたい。

また、建築士の質を上げる為の講習会をワンコインや数回まで無料で行い、管理建築士だけではなく従業員にも受講していただきたいと考えてる。

→<山口英生副会長>

災害も多く、またコンプライアンス的な事も増えている為、指導委員会の役割が重たくなっている。各委員会で連携が取れるものは取っていくべきだと考える。

→<白井会長>

日事連の建賠保険の担当委員としてやっているが、保険が支払われた事例をみると建築士としてありえない程レベルが低い案件にも保険金を払っている。事例を扱った内容の講習会も検討してほしい。

3. 神事協組織の確認

資料として配布された組織図（案）を基に説明がされた。

<白井会長>

今までやってきた組織と基本は同じ。

統括委員長会については、旧戦略企画委員会の一部の機能を移行し「未来に繋げる神事協」を具体化するために、各委員会や組織を横断するような課題や中長期に渡る課題を議論し、問題提起や提案などを理事会へ上程するとする。

指導委員会については、今までは指導委員会の中に関連の事業として調査鑑定の機能があったが、これをどういった位置付けにするか、今後検討していきたいと考えている。

広報情報委員会の一環として、会報誌編集特別委員会がある。

ブロック支部委員会は、災害対策特別委員会が各ブロックとの連携が必要なため、関連付けている。

業務支援委員会は専門委員会と関連があるため、位置付けている。

専門委員会は、今は木造専門委員会だけだが、今後必要であれば同好会活動から専門委員会（期限付き事業）や特別委員会（多年度継続事業）になっていく流れとなる。

ブロック支部委員会と業務支援委員会にある（仮称）会員サポートセンターの位置付けについては、今後検討していかなければならないが、会員サービスをここで統括し行っていくと考えている。東京会では別組

織としてあるが、神事協としてはセンターにするか等、機能や会員サービスのメニューを検討する必要がある。

別組織（設計事務所登録組織・建事協）は、各支部・ブロックとの連携・展開を今後検討していく。

ブロック協議会は支部との連携をどのような形にしていくか検討していく

相談役参与会は、前会長が相談役、副会長経験者を中心とした方が参与となり、意見を聴く会となる。

令和会は、相談役参与会を経験された方・監事を経験した方で構成されている。

法制委員会は、常設委員会委員長で構成され必要となる場合招集される。担当副会長 山口英生副会長

倫理委員会は、処分する案件があった場合招集される。

青年活動は、柔軟に動けるように青年部会運営委員会から変える事とする。

【神事協認定】同好会・倶楽部は、組織を上から作り指示して活動をするのではなく、やりたい事から発展させていく為にある。

<大和田副会長>

統括委員長会のあり方について、組織図の中の『戦略企画会議』となっている部分を重要視していただきたい。色々な委員会がある中で、会員の為になる活動があればこの場で意見を出していただき、会員の為に中長期に渡って何が出来るかを議論する場としたい。

資料の『令和3～4年度の委員会等』が、正副会長会より提案した常設委員会の考え方・方針等となっている。確認し改めて今後意見を出していただきたい。

資料の委員会活動方針（総財務委員会・業務支援委員会・広報情報委員会・ブロック支部委員会）は正副会長会でこんな活動をしてほしいという内容となっている。

→<三村総財務委員長>

統括委員長会は各委員会活動等の調整・情報共有する場と考えていいのか。

委員会の中で検討調整できる話は、ここで報告する必要はないと考えていいのか。

→<山口英生副会長>

その通りだと考える。全員に聞く必要がある・全員に聞かせる必要がある議題を議論する場と考える。

→<大和田副会長>

委員会の報告は事前の資料として出していただければ、委員会内での説明は不要と考える。

今回の委員会でも、齋藤委員長から会費の減免について講習会の無料化等の意見があったが、この事は横の連携（委員会の連携）が重要な事から、このような意見を議論する場としていただきたい。

⇒今日の段階で出た意見等も含め次回開催の統括委員長会の議事提案として出し、議論する事とする。

事前に議題をメールで送付するので、意見（要・不要等含）をいただきたい。

4. 合同役員会の開催について

日時開催方法について事務局より報告され、以下の内容で関係者各位に連絡をさせていただく事となった。

- ・日程：9月17日（金）
- ・開催方法：WEB（zoom）開催
- ・13：00～14：30 正副会長会
- ・15：00～16：30 理事会
- ・17：00～19：00 合同役員会

各担当副会長と委員長とで相談していただき、報告書（委員会の方針）の作成・提出を依頼するので協力をいただきたいとの話しがあった。

5. 同好会設立について（統括委員長会認定・理事会報告）

同好会設立については、統括委員長会へ届出、統括委員長会が認定し、理事会報告となる。

1) かながわ建築設計大山講

設立届・設立趣意書・規約・名簿が提出され、磯部事務局長より設立についての趣旨の説明がされた。

<意見等>

これは神事なのか？目的を見ると神事に思えてしまうが。一般論として公益の団体としては宗教色が濃いものは避ける傾向にあると思うので確認したい。（永島副会長）

→神事ではなく、特定の宗教色はない。歴史的活動で建物とも深く関連している事からの趣旨である。

（杉本副会長）

→同好会なので、宗教色があっても構わないと考える。（大和田副会長）

→親睦も図れ建築の話しも出来ると思うので、設立は問題ない考える。(白井会長)
→規約第三条の『～崇敬者をもって組織する。』の部分が宗教色が強く出てしまっているの、その部分を少し変えた方がいいのではないか。(齋藤指導委員長)
→例えば『設計業務に関わっている者で、大山阿夫利神社に関心がある者でもって組織する』等、文言を変更する事を考えてほしい。(白井会長)
→同好会なので、宗教的なものであってもでもいいと思う。あえて文言を変える必要はないのではないか。(大和田副会長)

⇒『かながわ建築設計大山講』が神事協同好会として認定された。
併せて統括委員長会で出された第三条の意見を同好会へ報告し、同好会内で検討した結果を理事会へ報告していただく事となった。

2) (一社) 神奈川県建築士事務所協会 Archicad 同好会

設立届・設立趣意書・規約・名簿が提出され、発起人の山口英生副会長より設立についての趣旨の説明がされた。

Archicad を使用する同志で、情報交換や小技交換を気楽にやりたいという趣旨。

グラフィソフトが積極的に協力をしてくれており、スーパーバイザーとして参加してしてもらっている。

この会をきっかけに神事協への入会を検討している方もオブザーバーとしてメンバーに入っている。

今後は、賛助会の福井コンピュータが扱うソフトも検討項目とし BIM 全体を網羅する会にしたいとも考えている。

<意見等>

BIM についての相談相手がなかなかいない中、仲間同士で情報交換ができる会は非常に良い事だと思う。
(白井会長)

購入してからの 2 年間というのは、ハードルが高く手を付けずにやらない方が多い。そういった方へのフォローや、メーカーは言わない仕事についての向き不向きについての助言等も行える会としたいと考えている。(山口英生副会長)

⇒『(一社) 神奈川県建築士事務所協会 Archicad 同好会』が神事協同好会として認定された。

⇒2 つの同好会について、理事会へ報告後、瓦版で特集を組み会員の方に情報を発信するよう会報誌特別委員会へお願いする事となった。

6. 統括委員長会 今後の開催日程について

偶数月の第 3 金曜日 15:00 ～ 16:30 に開催する事となった。

今年度開催日程：10 月 15 日 (金)・12 月 17 日 (金)・2 月 18 日 (金)

7. 令和 3 年度版の会員名簿広告募集について

現在令和 3 年度の会員名簿を作成しており広告掲載募集をしているが、少ない応募状況であるため、是非積極的にご協力いただきたいと事務局より話しがあった。

次回委員会 令和 3 年 10 月 15 日 (金) 15:00 ～ 16:30

以上

2021～2022 年度 第 3 回 一般社団法人神奈川県建築士事務所協会 統括委員長会 議事録

開催日時	令和3年10月15日（金）	会 場	Web 会議
出席者	会長 白井勇 副会長 大和田優 山口英生 杉本勝郎 永島優子 山口雄 小松正道 総財務委員長 三村邦彦 業務支援委員長 小山美智恵 広報情報委員長 鈴木武昭 ブロック支部委員長 平野武洋 指導委員長 齋藤清 専務理事 酒井弘幸 事務局長 磯部崇 事務局 小林恵美		
○白井会長挨拶 組織の全体像（案）が出来あがった。これを基に本日検討し進めたいと思っている。 ○司会進行 山口英生副会長 前回議事録を、各自事前に配布された資料により確認された。 議題 1. 神事協組織の運営について 1) 組織図（案）が示され、内容についての概略が説明された。 ・常設委員会（指導委員会含）が統括委員長会に直接リンクされている事が明確になった。 ・対外的にわかりやすくする為、多年度継続事業である特別委員会を一つの枠の中で表示した。 ・青年部会（運営委員会）の枠を大きくし、若手の方の活躍を期待している事を明示した。 ・点線表示は、神事協と密接に絡んではいるが、別組織である事を示している。（政研等） ・重点事業として、ブロック支部委員会・業務支援委員会・別組織（設計事務所登録組織・建事協を想定）が一体となって会員向けに業務等を提供する、（仮称）会員サポートセンターを創設。 ・神事協認定同好会については、会員の為に有効な活動を提供していくために必要であれば、専門委員会になるとの流れを示している。 ⇒この形の組織図ですすめていく事となった。 2)（仮称）会員サポートセンターの今後の進め方について、 （1）東京会が行っている『マネジメント支援センター』の資料を基に意見が出された。 ・設計図書の保管サービスについて、指導委員会でも話が出ている。調査鑑定業務等を行った際に古い建物の図面がないケースがある、神事協でも設計図書の保管サービスができればいいと思う。 どれか一つでも、出来る事から始めていけば良いと考える。（山口雄副会長） ・『マネジメント支援センター』は業務支援委員会がまさにやろうとしている内容が多い。業務支援委員会で内容を精査し検討させていただく。（永島副会長） ・東京会にとらわれ過ぎず、できれば神奈川会独自・神奈川会の会員が欲しいと望まれるものを作りたいと考える。直接的な業務に結び付く、設計事務所登録をしている別組織（建事協）を利用し、例えば昨年度から県西支部が行っている定期報告業務をマニュアル化する仕組みを作成し、各行政にアピールし受注に結び付ける等が考えられる。 また、経験が浅い会員が業務において困った際、経験がある先輩に気軽に直接聞く事ができ、応えてくれるシステムがあればよいと考える。（大和田副会長） ・東京会『マネジメント支援センター』のイメージとしては、経験が浅いこれからの人たちへの支援はあまりなく、既存の会員のホールド（会員減阻止）の意味合いが強いと感じている。それも大事だが、神奈川会としては、若い方たちの支援も行っていきたいと考える。（山口英生副会長） ⇒統括委員長会は今後の神事協について戦略的に検討していく場と位置付けている事から、（仮称）会員サポートセンターの設立について検討・議論し、毎回の大きなテーマ（議題）とする。 内容がある程度固まった時点で、必要な委員会等で深め実行していく事とする。 （2）各自どのような事をやっていきたいか意見を述べ、次回統括委員長会にたたき台（スキーム）を提出する事となった			

- ・上記の経験が浅い会員が聞ける仕組みと業務に結び付ける仕組みについて。業務に結び付ける仕組みについては業務支援永島担当副会長とも検討する。(大和田副会長)
- ・廃業に向けて設計図書の保管サービスや、かかわった建築物に関して今後の取扱い等、事業継承について勉強会開催等(平野ブロック支部委員長)
- ・若い層だけではなくベテラン層にも作ったものをきっちり伝えていく枠組み・取り組み。(杉本副会長)
- ・若い層がベテラン層に聞きたい事に答えてもらう仕組みは、LINE (LINE WORKS) 等で出来ると思うが、SNS について若い人は抵抗ないが、ベテラン層は抵抗があると思う。ネットで検索する以上の経験上の事を伝えてもらいたいと考える為、ベテラン層を取り込めるかが課題。(鈴木広報情報委員長)
- ・建物が健全な状態を保つために図面等保管サービス。
管理建築士の立場が軽んじられていると感じていることから、管理建築士が重要なポジションである事を世間にアピールしていく事が必要。また、建築士事務所を開設していない建築士に向けて、管理建築士になる為に建築士事務所の所属建築士として経験が3年必要等の条件がある事も伝えていく事が必要と考える。(齋藤指導委員長)
- ・東京会のある程度しっかりしたものができているので、出来る事は真似しスピーディーに進めていく事が大事。少ないコンテンツから始め、後から肉付けしていく方法がよい。(三村総財務委員長)
- ・賛助会・弁護士・設備事務所・行政書士(建築系)・建築系カメラマン等の金額や時間的な事もわかる紹介システム。(小山業務支援委員長)
- ・東京会は内向きの会員サービスとなっているが、神奈川会では業務を作る外向きのサービスも意識して検討してほしい。(永島副会長)
- ・実務文書フォーマット提供・協力事務所紹介サービス等はすぐに実行できる部分もあると思う。今は(仮称)となっているが、(仮称)を取って実態を作り、出来るところから進め肉付けをしていけばいいと考える。(山口雄副会長)
- ・今後議論する中で、どこからどの状態で始めるかスケジュールも検討する必要がある。(白井会長)
- ・構造設計等のセカンドオピニオン。(小松副会長)

⇒各自、次回統括委員長会へ1個たたき台(スキーム)を提出する事となった。

2. 今年度の各委員会の事業計画について

あと半期だが、決まっている事に関しては委員会で進めていただいて、今後の事については次回統括委員会で報告するよう白井会長より話があった。

3. 来年度の各委員会の事業計画(予算)について

来年度の予算方針については、例年より2ヶ月程遅く11月19日の理事会にて発信する事となっているが、策定提出締切時期は例年と変わらない12月15日となっている為、依頼がある前提で委員会では動いてほしい旨の話しが三村総財務委員長よりあった。

4. 委員会検討依頼

- 1) 電子帳簿保存法改正への対応(会員への周知)について(総財務委員会より業務支援委員会への依頼)
業務支援委員会が、会員サービス(業務支援)の一環として、セミナーの実施など会員への周知について検討する事となった。
- 2) WEB 会議ツールの調査および周知について(総財務委員会より業務支援委員会への依頼)
業務支援委員会と広報情報委員会で協力し検討する事となった。
- 3) 定款施行細則第21条(指導委員会)改訂(指導委員会より総財務委員会への依頼)
総財務委員会で検討した結果『現状の21条の1項一及び二に含めるか、三及び四を包括できる内容に』を基に指導委員会で検討した結果、一と二に含める事とし、次回総財務委員会に再検討依頼を提出する事になったとの報告が齋藤指導委員長よりあった。
- 4) 『建築物等調査・鑑定業務登録事務所』要綱改訂について(指導委員会より総財務委員会への依頼)
総財務委員会で検討した結果『「登録料を指導委員会に提出する」を「本会に提出する」との表記にした方がよい』を基に指導委員会で検討した結果、「本会に提出する」と訂正し、次回理事会へ諮る事になったとの報告が齋藤指導委員長よりあった。

5. (日事連) 単位会組織強化支援事業について

今年度は、ブロック支部委員会で検討している『しごと展』を提出する事になったとの報告があった。
次年度以降は、審査基準の会員事務所の事業拡大・会員増強に繋がる等を基に各委員会で検討し、調整を総財務委員会がする事となった。
次年度以降の各年度の提出締切は春先から夏頃になる事が予想される。
支部からも提出できる旨、ブロック支部委員会より各支部へ周知する事となった。

6. 新型コロナウイルス感染症への対応について

Web での会議については既に浸透していることから、参集による会議についての注意事項を記述し近日中に通知を出す予定である事が事務局より報告された。

7. 平成 4 年賀詞交歓会について

1 月 19 日（水）に予定されていた賀詞交歓会について 1 月 26 日（水）に日程変更した事が報告された。また、実施方法については今後検討される。

8. その他

1) 11/19 の理事会へ諮る青年部会運営委員について、各ブロックへ委員推薦依頼を再度出す事となった。

2) 『建築物等調査・鑑定業務登録名簿』等、各委員会が作成している登録名簿を会員名簿へ掲載する事を検討してほしいとの意見が齋藤指導委員長よりあった。

→（白井会長）会報誌特別委員会担当副会長の杉本副会長へ、規約等の問題がなければ是非掲載を検討してほしい。

→（杉本副会長）原稿締切が 10 月 15 日の為難しいかもしれないが検討する。

次回委員会 令和 3 年 12 月 17 日（金）15：00 ～ 参集予定（時間変更有）

※同日支部長会（Web）開催

以上

2021～2022 年度 第 4 回 一般社団法人神奈川県建築士事務所協会 統括委員長会 議事録			
開催日時	令和 3 年 1 2 月 1 7 日 (金)	会 場	神事協会議室
出席者	会長 白井勇 副会長 大和田優 山口英生 杉本勝郎 永島優子 山口雄 小松正道 総財務委員長 三村邦彦 業務支援委員長 小山美智恵 (欠) 業務支援副委員長 数田亨 広報情報委員長 鈴木武昭 ブロック支部委員長 平野武洋 指導委員長 齋藤清 青年部会運営委員長 横山尊重 専務理事 酒井弘幸 事務局長 磯部崇 事務局 小林恵美		
○白井会長挨拶 会報 1 月号に寄稿した『新年の挨拶』に来年度の 5 つの活動の取り組み (予算方針) を示している。予算方針を勘案の上、今後の委員会運営等を行ってほしい。 また、会員サポートセンターの名前を打ち出した事が大きい。今まで進められなかった事を実現して希望を持てる会となっていくと考える。 ○司会進行 山口英生副会長 前回議事録を、各自事前に配布された資料により確認された。 議題 1. 日事連令和 4 年度単位会組織強化支援事業について 1) 日事連の募集要件 (予定) ・ 2 月 2 8 日申請締切 ・ 各単位会 1 件につき 100 万円限度 ・ 各単位会 申請件数は 3 件まで 2) 当会の申請について 今回提出された『新規講習会』(ブロック支部委員会)を含め、改めて各委員会から次回統括委員長会へ提出していただき 3 件に絞る。また『会員サポートセンター』も申請する事となった。 2. 令和 4 年度予算策定について 各委員会から提出された予算要求 (案) をもとに総財務委員会が作成した令和 4 年度収支予算書 (2021/12/17 案) について、予算策定について検討された。 →・現時点でマイナス 5,053,864 円となっている為、総財務委員会で内容を確認し、1 月の理事会に提出する事となった。 ・ サポートセンター設立事業等に伴う特別事業等 (重点施策) についての予算については、別予算等を検討するとした。 ・ 景観・まちづくり特別委員会より提出された『DX 活動展開に向けた機材提案』については、購入は必要とするが、上記の特別事業等 (重点施策) 等で対応するか否か検討することとなった。 3. 各委員会 来年度の事業計画について 各委員会より、来年度の事業計画について説明がされた。 新規事業計画について下記の通り報告された。 ・ 業務支援委員会: JAAF・MST 講習について、日事連が作成した DVD を使用し定期的に開催する。 ・ 青年部会運営委員会: 新規開設者や若手会員が知りたい情報を定額で配信 (サブスクリプション)。 委員会が決めたテーマを関連する委員会と連携し小技動画を作成、YouTube にアップ。 (若者層のスキルアップの為) ・ 会報誌編集特別委員会: 瓦版を web 化し、送料が浮いた分で会報誌を増ページ。 4. (仮称) 会員サポートセンターについて 各提出したスキームの説明がされた。 ・ 神事協「会員ページ」にある既存のコンテンツを各委員会に振り分け、有効利用・改善しすぐにでも実行する。その後は各委員会がテーマにあったコンテンツを提案・肉付けしていく。(山口雄副会長) ・ 会員からの問い合わせ窓口 (きがるに構造相談室)。相談役として、構造専門事務所から協力事務所 (10 事			

務所程度)を集い、構造に係る相談対応する。(小松副会長)

- ・「今ある情報を整理して HP の会員専用ページを充実させる」どのような委員会・同好会が何をしているのか。賛助会やその他紹介システム、講習会のスケジュール等。(小山業務支援委員長)
- ・会員サポートセンターの連絡方法を LINE と提唱。(鈴木広報情報委員長)
- ・設計図書をデータ化しクラウド上で保存、個人情報管理、所有者の求めに応じて資料提供できる仕組みの作成。また web 会議・打合せ等に慣れていない会員もいることから、web についての講習会開催を希望する。(齋藤指導委員長)

- ・サポートセンターに求められるものは、会員の認知度を上げ、分かりやすい利用方法、分からなければ相談できるコンシェルジュの創設。(杉本副会長)
 - ・東京会の「マネジメント支援センター」をベースに神事協の実情に合う内容を精査、実効性を検証し、期限を定めスピーディーに進める。東京会にない神事協独自のものとして、業務シェアリング・マッチングサポート・スマートコンペ。(三村総財務委員長)
 - ・神事協の Q & A システムの構築については各委員会で協力し行う。(スキーム構築：業務支援委員会・システム構築：広報情報委員会・報酬金額等：総財務委員会・答エーラー：ブロック支部委員会)(大和田副会長)
 - ・会員サービスとして、講習会のカテゴリー別年間スケジュールを各委員会に協力していただき作成する。HP に公開し会員の受講スケジュールをたてやすくする。また、どのような講習会・スキルアップが求められているか検討していきたい。
- 支部ブロックの官公庁からの受託業務におけるサポートとして、ブロック支部委員会と意見交換を行い受託に必要なスキルを身につけるための講習会等も検討し、講習会年間スケジュールに反映していく。(永島副会長)

＜今後の進め方について＞

今あるものからブラッシュアップし出来るところから少しずつ始める。

- ・次回(1月)理事会に報告(検討項目)
- ・次回(2月)統括委員長会に大枠とスケジューリングを提出。(永島副会長)
- ・総会(6月)で報告(ロードマップ)
- ・公開は秋口を目途とする。

⇒幹事を業務支援委員会(永島副会長)とし、各役割を担当委員会に割り振り進めていく事となった。

検討項目

1. 公式 SNS 開設について(広報情報委員会より)

『現在稼働中の非公式ツイッターの公式化、及び他の代表的 SNS (Facebook・instagram) に新規に公式アカウントを開設し、本格稼働させる』について。

⇒青年部会運営委員会で開設希望がある YouTube を含め、広報情報委員会で各 SNS のガイドライン(ルール)を作り、説明資料を付け理事会に諮る事となった。

次回委員会 令和4年2月18日(金) 15:00 ~ 16:30

以上

2021～2022 年度 第 5 回 一般社団法人神奈川県建築士事務所協会 統括委員長会 議事録

開催日時 令和 4 年 2 月 1 8 日 (金) 会 場 web 会議

出席者
 会長 白井勇
 副会長 大和田優 山口英生 (欠) 杉本勝郎 永島優子 山口雄 小松正道
 総財務委員長 三村邦彦 業務支援委員長 小山美智恵 広報情報委員長 鈴木武昭 (欠)
 ブロック支部委員長 平野武洋 指導委員長 齋藤清 青年部会運営委員長 横山尊重
 専務理事 酒井弘幸 事務局長 磯部崇 事務局 小林恵美

○白井会長挨拶

本日は、来年度にかけての取り組みについての検討と、来年度予算策定を 3 月の理事会での決議に向けての検討を主にやっていただきたい。

○司会進行 大和田副会長

前回議事録を、各自事前に配布された資料により確認された。

<議題>

1. 日事連令和 4 年度単位会組織強化支援事業について

現時点で、「景観・まちづくり特別委員会」「住・緑・家」運営特別委員会「横浜支部」の 3 点の事業の申請が出されている事が資料で確認された。

- ・各単位会からの応募は 3 点以内、合わせての支援金額は 1 0 0 万円以内との申し合わせがある。今回出されている応募件数と金額的にも問題ない為、他になければこの 3 点で進めてはどうか。(白井会長)
- ・前回の統括委員長会の議事録で「会員サポートセンターも申請する事となった」となっているが、会員サポートセンターは今年は申請しない事になったとの理解でよいか。(山口雄副会長)
 →現状では出せる状態まで進んでいない為、次年度に向けて準備する事にする。(白井会長)
 →急いでやってほしいとの事でしょうか。(永島副会長)
 →前回の統括委員長会で決まったとの記録が残っているので確認させていただいた。来年度やっていくとの認識でいいのか。(山口雄副会長)
 →議事録に書いてあるとしても、このまま進めると上手くものもいかないとの懸念はないか。(永島副会長)
 →サポートセンターについては後ほど議題となるので、その際お話をさせていただければと思う。今 3 点出ている為、新たな申請が出てくるとふるいにつけなくてはならないので確認した。(山口雄副会長)

⇒「景観・まちづくり特別委員会」「住・緑・家」運営特別委員会「横浜支部」3 点の事業を申請書をブラッシュアップし日事連に提出する事となった。

2. 令和 4 年度予算策定について

総財務委員会より提出された令和 4 年度収支予算書案について、三村総財務委員長より説明された。

- ・収支をゼロにし(案)を作成した。
- ・正会員会費は会員数を 770 名と設定している。
- ・雑収入 1387,500 円の内 600,000 円は日事連の会員増強助成金を見込んでいる。また、政研からの事務手数料を月 1 万円アップし 360,000 円で設定した。こちらについては、政研の監事会で承認が必要となる。
- ・サポートセンターについて、ホームページの作成について等で予算要求があったが、理事会にも諮っていない為計上はしていない。決まった時点で実施に向けて予算を編成する予定。
- ・ホームページについては、保守費用として一般会計 120,000 円・登録課 120,000 円計上している。
- ・総会及び賀詞交歓会の支出を各 100,000 円減額している。
- ・各委員会からの予算要求については大きく変えてはいない。

⇒令和 4 年度収支予算書(案)を 3 月の理事会に上程する事となった。

3. (仮称) 会員サポートセンターについて

- ・配布された追加資料を基に、1月の理事会に業務支援委員会より3件提出された委員会検討協力依頼の対応方法について永島副会長より説明された。

① 各委員会へ次年度の講習会内容の年間スケジュール提出依頼

→まとめたものを神事協ホームページへ掲載する。掲載方法については広報情報委員会と検討する。

② 会員サポートセンター設立にむけたコンテンツの検討アンケート (案)

外向きサポート・内向きサポートの各アンケート内容について説明がされた。

サポートセンター設立に向けて、たたき台を作るためのアンケートとなる。

アンケート内容については今日初めて出しているものなので、期限を切って意見を募りたい。

3月の理事会に集計結果を出したいと考えている。

③ 支部ブロックの官公庁等からの受託業務におけるサポートの合同検討意見収集アンケート実施について

アンケート内容については、さらに検討する。

スケジュールについて、4/12の支部長会で事前に資料を配布し、当日はアンケートの内容及び補足説明を行いたい。その後アンケートにご回答いただく。

補足説明については、川崎支部では法人格を持っており、そこでかなり業務を受託している。そのラインナップを紹介することによって各支部に参考にしていただければと考えている。

6月の支部長会でアンケート結果を提出し、議論出来ればと考えている。

- ・会員サポートセンター設立に向けて、本日の統括委員長会で理事会に上程する前にある程度進路化する事が前回の統括委員長会で決まった。それを受けて会員全員に向けて検討のためのアンケートを行うのが②となる。本日の統括委員長会で承認されれば、アンケートの仕方は考えなくてはならないが、即アンケートを行い集計したうえで3月の理事会で資料として提出したいと考えている。

本日は、外向き・内向きのアンケート内容があるが、それぞれに加えたほうが良い項目等の意見を承りたい。直前に出し急なお願いとなるが、タイトなスケジュールとなるためご理解・ご協力いただきたい。

(大和田副会長)

- ・アンケートについて、理事会に提出した時点では依頼先をブロック支部委員会と支部長会と広報情報委員会と青年部会運営委員会とし会員全員とはなっていないが、集計が簡単なグーグルフォーマット等を利用すれば会員全員に配布する事も可能かと考える。多くの回答があった方が良く皆さんが考えるのであれば、会員全員に向けてのアンケートを行いたい。(永島副会長)

- ・アンケートについて、全員に向けてということであれば、考え方のフレーム・組織・システムの説明が必要なのではないか。まずは限定した相手の結果を集約してから、広げていく方がよいと考える。(白井会長)

- ・粗データを集計する為のアンケートと考えている。会員の皆様がこういったことに興味を持っているか等、広く意見を募った方がよいと考える。理事会に提出したアンケートの対象者は、本会に出てきている方々で既に意見を言われている立場の方なのではないか。他の方々がこういった事を考えているかを知るために多く対象を広げた方がよいと考える。集計についてはWEB上で完結できるシステムを使い会員情報メールで流し、バックデータを揃えて検討する方法がよいと考える。(大和田副会長)

- ・前回の統括委員長会の議事録で、「今あるものからブラッシュアップし出来るところから少しずつ始める」となっている。アンケートを取ることは今の皆さんの意見を吸い取るために必要だと考え賛成するが、今あるものは作った方が必要だと考え作ったものであり、そこをブラッシュアップし進めるというのは、アンケートを取ってからの話しになるのか。(山口雄副会長)

→会員サポートセンター自体がどういうものか形が出来上がっていないというのがある。当然前回の議事録にある「今あるものからブラッシュアップして始める」というのも並行して進めていく必要もあると考えている。それプラス会員の皆様の大多数の声も吸い上げながら新たな仕組みを作っていく観点ではアンケートは必要。どちらかをやるということではなく、並行してやっていくべきものだと考える。

「今あるもの」については、各委員会で会員向けの支援事業をしていると思うが将来に向けてこういった形でやっていくのかを日々の委員会活動とは別に委員会活動としてやっていってほしい。(大和田副会長)

→並行して出来ればいいが、並行してやっていくとなればどこかに作業量がかかなり負担がかかってくる。「今あるもの」を各委員会に振り分けていただければ、「今あるもの」が少しでもいいものが出来上がると考える。そこを並行してやっていっていただきたい。(山口雄副会長)

→負担と言うのはどこにとのことか。(永島副会長)

→幹事の業務支援委員会(永島副会長)を通していかななくてはならないので、業務支援委員会の負担になると考えている。(山口雄副会長)

→何を求めているかによって、今の組織で対応できるかどうかの判断を先ずする。漠然と考えているものがある。当てずっぽうでアンケートの項目を考えているわけではない。まずその見極めが必要と考える。そこから進めないとこういった形でサポートセンターを設立するのか形にならないし説得力がない。そこを考えているとの事は理解いただきたい。(永島副会長)

→まずはそこからとの事か。(山口雄副会長)

→そこが出来ないとその先が進まないと考える。(永島副会長)

→今あるものもサポートとなっていると考えるが。(山口雄副会長)

→全然違う。(永島副会長)

→皆さん今あるものもサポートとなっていると考え、前回の統括委員長会で今あるものをブラッシュアップするとなっていたと思うが。(山口雄副会長)

→こちらで考えている事がある。裏付けとしてこのアンケートが必要で位置付けたい。並行という表現が正しいかわからないが、先を見据えて建設的な形でとらえていただきたい。(永島副会長)

→会員のためにサポートセンターを設立するというのは理解されていると思うが、会員が何を求めているか、これは少数意見も尊重しなくてはならないが、大多数の会員及び県内に登録している事務所の要望を具現化している事が大事であり、会員増強にも繋がっていく。数量的なバックデータなくして想定での活動はリアリティにかけろのではというのが永島副会長の意見であり私としても賛成です。(大和田副会長)

→こういった事を見える化していきたい。それが結果として会員増強となると考える。今あるものでいいといった考え方は、全然方向性が違うことは認識していただきたい。狙っているところは別のところにある。(永島副会長)

→今あるものでいいとは思っていない。自分も会員増強のコンテンツとして利用できればと考えている。

(山口雄副会長)

・青年部会運営委員会としても、会員の皆様が何を求めているか現状を幅広く知りたいと思う。そのデータを利用しさらに深く掘り下げる事も必要だと思う。また、隠れている若い社員・所員の方の意見を抽出できればと考える。(横山青年部会運営委員長)

→青年部会運営委員会には期待している。若い経営者を増やしたいとの観点から、こんな業務を受注したい、その為にはこういったスキルが必要等の意見を出してほしい。(永島副会長)

・アンケートについては賛成である。アンケート項目でこれはこの委員会等振り分ける事が薄っすら見えてくるとは思う。先ず今できる事を優先に考えると、内向きにはブロックや支部でやっている会員の廃業についてのアドバイスや手伝い、またトラブルを抱えた時のアドバイスをこういった時はここにとか、こういうのがあるとのPRが必要と考える。外向きには若く勤めている人に独立心を持っていただけるよう発せられるといいと思う。(斎藤指導委員長)

・サポートセンターの役割は魅力があると思う。アンケートを行うにしても、サポートセンターについて知らない人も興味を持ち、また意見を言いたくなるような説明が大事だと考える。コンパクトで分かりやすい説明のうえでのアンケート、またこういう方法で進めますとのわかりやすい計画をまず知らせたうえでのアンケートがいいのではないかと考える。また、今あるコンテンツや方法を知らない会員がたくさんいる事が今のもったいない状態である為、昔からあることやこういう風にやっていたという考え方そのものの整理が1番目にあるといいと考える。アンケートについては、この内容や必要なことに意見を求めればいいものが出る と考える。(小山業務支援委員長)

・いきなりアンケートを出しても理解しにくい部分があると思う。

まずは最小限のコンテンツでスタートさせて、そこに肉付けする形でアンケートを取る形の方が理解されるのではないかと考える。フルスペックでスタートさせる為のアンケートなのか、また少しずつ始めて肉付けする後々の為のアンケートなのか。(三村総財務委員長)

→フルスペックでのスタートは無理。一番何を求められているのかをデータとして把握したうえで、段階的にやっていく為の基礎データとなるアンケートである。(大和田副会長)

→今年度がスタートする前にYouTubeでどんな事をやるのかを発信した。その際話した、講習会年間スケジュールとサポートセンターの事を実現化する方向で先ずはアンケートを取るところであり、段階を踏んでやっている事をご理解いただきたい。(永島副会長)

→アンケートを受けた方が、理解出来なく答えられない事やスルーしてしまう事を考えると、最小限でスタートしながら、後に肉付けのためのアンケートを取る方法も良いのではないかと考える。(三村総財務委員長)

・サポートセンター全体の事については大賛成である。構造の相談等は積極的に受けたいとも考えている。先ずは動いてみる事が大事だと考える。(小松副会長)

・アンケートについては賛成である。やらないで後悔するより、やって失敗する事が大事だと考える。

(平野ブロック支部委員長)

・アンケートについては賛成である。年齢層によってニーズは違ってくる、それを知る事、また気が付く事も出てくると考える。(杉本副会長)

・アンケートについて、進め方の手順からするとニーズ把握のサーチとセグメントとターゲットとアクションの、サーチの段階であるとの理解している。また、対象を全会員にするという事であれば、理論付けが必要であり、必要性和将来像との説明、また段階的に進める事と、このアンケート結果の反映方法を宣言し促す事が重要である。項目の中で、今やってる部分と理想像のくくり方を順番替えをすると理解しやすいのではないか。アンケートはクリックして答えられる部分と新しい発想を吸い上げる部分で区分けするとよいので

はないか。段階的にやっていく優先順位をつけるための良いアンケートとなると思う。(酒井専務理事)

- ・改めて整理をすると基礎的な話を先ず聞いた方がいいと思う。年代別等の層が分けられ、その層に向けて必要なものが分かってくるのではないか。作り方や組織や予算等は次の段階である。まずはフラットに聞いてみて、何に関心があるか、どのような事を会としてやっていくべきか等を考え、段階的に進めていく必要があるのではないか。

スケジュール的には総会時に中間報告をし、その後年度内でやれるところから進める。その時点で組織の形態が違ってくると思うので、この組織では出来ないがこの組織にすれば出来るという事も出てくる。来年度の秋口に何かアクションが出来ればと考えている。(白井会長)

→各自において、各意見を深度化して行ってほしい。(大和田副会長)

⇒アンケートを実施する事となった。

リード文を永島副会長及び小山業務支援委員長で作成し、統括委員長会メンバーにメールで送付する事となった。項目等を増やす等意見があれば来週末(26日(土))までにメールで送付する事となった。

依頼先については、ブロック支部委員会と支部長会と広報情報委員会と青年部会運営委員会とする。

スケジュールについては、3月1日に送付、3月15日提出締め切り、3月の理事会へ集計結果を提出する予定とする。

<検討事項>

1. 入会金及び会費 6ヶ月無料キャンペーンの導入について(総財務委員会より)

配布された追加資料を基に内容が三村総財務委員長より説明された。

- ・スケジュール：4/1 から運用開始
2月下旬に支部長宛に案を送付。(意見締切2月末)
3/18 総財務委員会で意見をまとめ理事会へ上程→承認
- ・制度名称：入会時における『入会金および会費(本部および支部会費) 6ヶ月無料キャンペーン』
- ・制度実施の目的：入会促進による会員増強と長期的視点に基づく本部・支部の収入確保
- ・実施期間：令和4年4月1日から令和5年3月31日まで
- ・適用対象および適用条件
 - ：実施期間内に入会された方を対象とする。
 - 入会経路は問わず、また、新規開設「建築士事務所」講習会の受講も条件としない。
 - 再入会時の利用は可とする。
 - 複数回の利用は不可とする。
- ・その他の条件および留意事項
 - ：正式入会のため、会員としての権利や義務および責務は通常の会員と同様とする。
 - 日事連会費 900 円/月/人は、本部の負担とする。
 - トライアルメンバー制度は休止する。
 - 新規開設「建築士事務所」講習会の受講者を対象に実施していた『入会金無料キャンペーン』については、休止する。
 - 共済会費および政研会費についてもキャンペーンの対象とするが、適用期間中における慶弔見舞金の支給等、共済会および政研に関する権利は発生しないこととする。

→再入会の場合退会してから何年以内・以上等の決まりはないのか。退会した方に再入会をすすめたいが。
(齋藤指導委員長)

→再入会の何年以内等の決まりはない。権利の利用が1回とする。(三村総財務委員長)

- ・支部への交付金を毎年3月末の会員数に応じて5月頃に支給しているが、このキャンペーンに伴い休止する。支部へは再来年度予算策定の際に説明する。(三村総財務委員長)

⇒入会金及び会費 6ヶ月無料キャンペーンについて、総財務委員会で制度内容を整え3月の理事会に上程する事となった。

2. エンジョイワークスセミナー講師料支出について(景観・まちづくり特別委員会より)

配布された資料を基に杉本副会長より内容について説明がされた。

- ・景観・まちづくり特別委員会委員を対象とし、空き家・空きビルの再生事業の事例紹介及びその事業手法、鎌倉市の指定管理事業である「旧村上邸」の保存活用事業の経緯、事業内容等を(株)エンジョイワークスよりレクチャーしてもらい、意見交換も行う。
- また、セミナーの一部を編集し、相模原市景観整備機構の指定勉強会の題材のひとつとしたい。

⇒開催について承認され、実施企画書を景観・まちづくり特別委員会より総財務委員会へ提出する事となった。

3. 委員会開催について（白井会長より）

以前より経費削減の観点から委員会開催について2ヶ月に1回等の制限をしていたが、web会議等も可能な環境に変わってきている中で、来年度以降予算の範囲内で回数を増やす等、活発な委員会活動を行っていただきたい。また、事務局も委員会に出席し議事録作成等を行う為、業務時間内での開催をお願いしたい。

⇒近日中に文書を出す。

<委員会報告>

1. 事前に提出された資料を基に委員会活動が確認された。
2. 会員増強をテーマとして考え、5年ごとの事務所登録更新時に開設者・経営者向けの講習会を義務付け、管理建築士の権威を高める運動を神奈川会から行いたいと考えている。現在、八王子アパート階段崩落事故の件で神奈川県に協力している為、受講の義務化に協力していただけるタイミング的にはよいと考える。
管理建築士の意見を無視する現状の対策を、会長には日事連から全国に働きかけていただきたい。
(斎藤指導委員長)
→全国では30県以上が知事指定を受けている。日事連でも動いている部分もある。
神奈川会でも、動いていければよいと考えている。(白井会長)
3. 6月25日(土)9:00に地引網の予約をした。(コロナ禍によって変更等もあり)(平野ブロック支部委員長)

<その他>

1. 「住・緑・家」のコンペ募集について、予算が状況的により一層厳しいものとなると考えられるが、その点は考慮されているのか。(三村総財務委員長)
→考慮されている。また、募集期間が短くなってしまうため、事前告知のメールを流した。(大和田副会長)
2. 前回の統括委員長会の検討事項で出された、公式のSNS等のガイドラインの進捗状況を教えていただきたい。
(横山青年部会運営委員長)
→広報情報委員会で検討している。精査しながら一番適したものから始めるとの流れになっている。報告しながら進めていきたいと考えている。(杉本副会長)
3. 3月11日に開催される制度改正ワーキングには正副会長が参加する事となっている。
本日の正副会長会で検討し、検討する方向をまとめたものを提出させていただく。(永島副会長)

○永島副会長挨拶

次回委員会 令和4年4月15日(金)15:00～16:30

以上

2021～2022 年度 第 6 回 一般社団法人神奈川県建築士事務所協会 統括委員長会 議事録

開催日時 令和 4 年 4 月 1 5 日 (金) 会 場 web 会議

出席者
 会長 白井勇
 副会長 大和田優 山口英生 杉本勝郎 永島優子 (欠) 山口雄 小松正道
 総財務委員長 三村邦彦 業務支援委員長 小山美智恵 ブロック支部委員長 平野武洋
 指導委員長 齋藤清 青年部会運営委員長 横山尊重
 専務理事 酒井弘幸 事務局長 磯部崇 事務局 野口友弘 小林恵美

○白井会長挨拶

新しい年度となり総会に向けていくつか話があるが、ここ 1 年統括委員長会で進めていかななくてはならない事もあるのでお願いしたい。

○司会進行 大和田副会長

<議題>

1. (仮称) 会員サポートセンターについて

小山業務支援委員長より、現在の状況報告があった。

- ・『(仮称) 会員サポートセンターの設立に向けたコンテンツ検討アンケート』の結果から、それぞれの項目で全部必要とされていることがわかる。それをサポートする形で進めていきたい。
- ・各支部・ブロックの官公庁当からのからの受託業務について、支部の意見収集のためアンケートを実施するとの報告があった。
- ・講習会等年間スケジュール一覧表を HP にアップしたとの報告があった。
アイコンがカテゴリー別となっており、どの分野が重複しているかまた網羅されていないのかわかるようになっている。今後も各委員会で計画する際に、アイコンを使用するよう話があった。

<質問・意見等>

- ・ゴールはどこに想定しているのか。
また、会員ページ等にある既存のものをブラッシュアップするとの意見がかなり大勢の方から出ていたが、業務支援委員会では、この話はなくなってしまったのか。(山口雄副会長)
→講習会等を整理する事から始めているが、これからは出来るところから整理し進めたい。
(小山業務支援委員長)
- ・会員 800 名目標に向けて、具体的に案内・アピール出来るものがあれば強みになる。(山口雄副会長)
→HP にアップした講習会年間スケジュールもアピールとなると思うので案内していただければ。
(小山業務支援委員長)
- ・講習会スケジュールを Google カレンダーで共有する事を要望する。自分のカレンダーと重ね合わせられるので、会員・会員外双方に予定がたてやすく、入会動機にもなるのではないかと。(山口英生副会長)
→Google カレンダーについて確認する。(小山業務支援委員長)
- ・前委員長が退任されたため、委員長代行をやっている。広報情報委員会の約款には SNS と HP となっているが、現委員会では出来る人員がいらない。HP で何ができるか、何があればいいか、各委員会が HP に何を望むのか、業者の選定等を検討し、委員会の垣根を越えて協力・連携していく事をお願いしたい。
(杉本副会長)
- ・Google カレンダーを HP にアップする予算・スケジュールを広報情報委員会でまとめてほしい。
また、各委員会にも何を望むのか意見を集めてほしい。(大和田副会長)
→委員会で検討し進めていきたい。(杉本副会長)
- ・サポートセンター全体の青写真が把握できていない。まずはそこを示してほしい。
また、大きく風呂敷を広げるよりは、出来る範囲でやっていく必要があるのではないかと。アンケートを取って少人数の意見をくまなく汲み取る必要もないのではないかと。
情報はインターネットで取れる時代。神事協でなければ得られない情報を少ないコンテンツでもよいので載せ、便利な HP としてほしい。HP は作っただけではゴールではない。その後の改善・保守・管理も考え、大きく風呂敷を広げないほうがよいと考える。
スケジュールについて、これだけを見るといいが、課金システム STORES に直接繋がる(オンライン申込みと一体化)等少しでも操作をシンプルにする事も検討して欲しい。(三村総財務委員長)

<まとめ>

サポートセンター全体像について

→今ばらばらに散らばっている実際にある情報を、サポートセンターがある事によって一つにまとめ、わかりやすく発信できる状態にしたいと考えている。（小山業務支援委員長）

既存のコンテンツの整理について

→整理を進めているところだが、今後もアンケートの結果から優先順位をつけ進めていきたいと考えている。（小山業務支援委員長）

HPのスケジュール・課金システム・アウトソーシングについて

→コンテンツの整理・見やすいアイコンの整理が主と考えているが、まだ進んでいない状態。

今後スケジュール等について委員会内で打ち合わせを重ね検討していく。（杉本副会長）

→STORESに載っているアイコン等も統一するように検討していただきたい。（大和田副会長）

→使いやすさ等他の可能性もあることから、STORESに限らず他の課金システムに乗り換える選択肢も検討していただきたい。（三村総財務委員長）

・会議方法等にテクニカルツールを使用する事も検討していったほしい。（山口英生副会長）

・日事連単位会組織強化支援事業で、外注費も予算の1/3までなら使える。申請する事も視野に入れ進めていったほしい。（白井会長）

・次回統括委員長会に特別委員会委員長・専門委員会委員長も参加していただく事となった。

→委員会での検討項目（既存コンテンツの整理・各委員会からの要望）等及び参加いただく趣旨（情報共有）を小山業務支援委員長にご作成いただき、事前に各委員長へ送付する事となった。

2. 会員増強について

ブロック支部委員会より『令和3年度新規開設講習』の受講者に行ったアンケートの結果が、今後の会員増強のための資料として示され、内容について平野ブロック支部委員長より説明された。

→新規開設受講者の内、入会された人数も示すべき。（三村総財務委員長）

→8名（8/26）が入会されたとの事が事務局から報告された。

→過去2年度分程のデータ及び、入会後すぐ退会された等のデータも事務局より報告する事となった。

現在行っている『入会金・会費6ヶ月無料キャンペーン』について、チラシを支部長には送付しているが、各委員会等でも周知するよう話があった。また、会員宛にもメーリング等で周知する事となった。

日事連で昨年行った、各単位会で行っている会員増強の取り組みについてまとめたデータを白井会長から提供いただき、統括委員長会メンバーに送付する事となった。

<報告事項>

1.（ブロック支部委員会）地引網大会開催について

6月25日（土）に開催を予定している地引網大会開催の可否を、5月18日（水）の理事会で確認するとの報告があった。開催が決定した場合は6月号瓦版（6月1日メール配信）で周知する。

2.（総財務委員会）2021年度決算状況報告

総財務委員長より2021年度正味財産増減計算書（案）が示され、内容及び次回理事会にて報告する事が説明された。

事務局より各支部からの決算の取り纏めは4月22日（金）締切で提出をお願いしており、現在4支部から提出されているとの報告があった。

結果的には赤字を免れた数字となっているが、DX化により講習会手数料収入が激減等、今後はかなり厳しい状態となる。共通認識とする為に具体的に数値化し示す事を考えている。

また、事務局へDX化により増減した業務等を数値化し、分析の上効率化も図り捻出した時間を今後の神事協の業務改善・工夫を考える事に充てるよう等に意識を啓発している。（山口英生総財務委員会担当副会長）

<その他>

1. 講習会等における講師以外の参加者の取り扱いについて

委員会が主催する講習会等における、講師以外の補助や運営手伝いの委員の受講料についての取り扱いについて共通認識を持つため、以前から行っている通り『講習会等によって扱いはケースバイケースとなる為、判断は委員会に委ねる』との事を再確認した。

2. 委員会の進め方について

今後、委員会を活発に活動する為、事務局のかかわり方を考えていく必要がある。例えば議事録を簡素化する等、検討していただきたい。(白井会長)

→他の委員会等の議事録も見ている。議題があり決定していけば非常に簡潔に出来ているが、決定する事がなければ記録として残しておかなければならない為、長くなっている。議題のあげ方が重要であり、また会議のやり方として決まっていく方向で進めていく必要があるのではないかと。(山口雄副会長)

<委員会報告>

事前に提出された委員会報告により確認された。

・青年部会運営委員長

サポートセンターのアンケート結果を青年部でしっかり内容を確認し、今後の青年部の活動のヒントとして活用していきたいと思っている。

・総財務委員会

『入会金・会費6ヶ月無料キャンペーン』のチラシを作成しホームページにも掲載しているが、リニューアル版を作成している。その際、会員メリット欄に『サポートセンター準備中』と記載してもよい。

→準備中と記載するのであれば、掲載可。(白井会長)

・業務支援委員会

賛助会員が主催する講習会等の周知協力をする際、業務支援委員会『協力』『後援』を案内等に使用してもよい。

→企画書等で講習会等の内容を業務支援委員会で確認し、『協力』『後援』を使用する事は可とする。また、『協力』『後援』の使い分けは内容によって判断し、理事会報告する事となった。

○小松副会長挨拶

次回委員会 令和4年6月10日(金) 15:00 ~ 16:30 (拡大統括委員長会)

以上

2021～2022 年度 第 7 回 一般社団法人神奈川県建築士事務所協会 （拡大）統括委員長会 議事録			
開催日時	令和 4 年 6 月 1 0 日（金）	会 場	神事協会議室 web 併用
出席者	会長 白井勇 副会長 大和田優（欠） 山口英生 杉本勝郎 永島優子 山口雄 小松正道 総財務委員長 三村邦彦 業務支援委員長 小山美智恵 広報情報副委員長 白川幹 ブロック支部委員長 平野武洋 指導委員長 齋藤清 青年部会運営委員長 横山尊重 会報誌編集特別副委員長 加藤一郎 マンション等の大規模修繕業務特別委員長 粕谷秀樹 「住・緑・家」運営特別委員長 渡邊靖 景観・まちづくり特別委員長 寺本勉 木造専門委員長 山中信悟 専務理事 酒井弘幸 事務局長 磯部崇 事務局 野口友弘 小林恵美		
○白井会長挨拶 総会も終わり新しい年度が本格的に始まる。すすめている（仮称）会員サポートセンターと令和 4 年度の各委員会の取り組みと新規事業について確認のため拡大統括委員長会を開催した。 ○司会進行 杉本副会長 ・事前に配布された前回議事録を各自確認した。 <議題> 1.（仮称）会員サポートセンターについて 1）永島業務支援担当副会長より、事前に配布された資料を基に現在の状況報告があった。 ・会員サポートのサービスについて、内向きサポート（会員サービス）と外向きサポート（業務の戦略サポート）の 2 つの方向性で 2 回行ったアンケートを基に検討している。 ・今後ロードマップを作成し、最終系のイメージ合わせのための意見交換を行っていきたい。 ・神事協内部の組織でやっていくか、独立組織化し進めるかを今後検討する。 ・現在あるサービスをブラッシュアップし、出来ることから始める。 会員頁にある委員会作成資料等をブラッシュアップするので、各委員会にご協力いただく。 ・現在（仮称）会員サポートセンターとなっているネーミングも検討していく。 2）各委員会委員長より意見 ・平野ブロック支部委員長 ネーミングは公募がいいのではないかな。 ・三村総財務委員長 スケジュールや青写真が見えない。今年度は出来ている部分でスタートのスケジュールを組み、新しい事を肉付けしていけばいいのではないかな。 ・白川広報情報副委員長 情報が盛り沢山。開始の際には継続の体制作りが必要だと思う。 ・齋藤指導委員長 スピード感が大事と考える。その為には各委員会に振り分ける体制が必要。 起業した若い人の事務所をどう取り込めるかが今後の神事協の課題ではないかな。 また、スピード感を考えると新たな組織ではなく、今ある組織を利用した方が良いと考える。 ・横山青年部会運営委員長 既存の物から使ってスピーディに進めていただきたい。 自分自身知らなかったツールも有る事から、情報発信が必要と考える。 50 歳以下の会員が 20% 弱である事に危機感を持っている。委員会としても手立てを考えていかなければと考えている。 ・加藤会報誌編集特別副委員長 サポートセンターの役割は大きく幅広い為、各委員会の協力が必要だと考える。 県西支部では、行政からの受託業務をいくつかやっている為、会員間が密に繋がり、又新たな会員へのアピールになっている。 ・粕谷マンション等の大規模修繕特別委員長			

若い人は、ホームページではなく Instagram 等の SNS から情報を仕入れている。会員外へのアピールも同時並行で行う発信方法を検討する必要があると考える。

- ・渡邊「住・緑・家」運営特別委員長

東京会で行っている「マネジメント支援センター」の、他会正会員は年間費 500 円で入れる制度を利用すればという意見がでてくるのではないかと。神事協としてやらなければならない理由を明確にしていかなければならないのではないかと。

- ・寺本景観・まちづくり特別委員長

事務所を立ち上げたばかりの若い人は、幅広い経験がない為困っている事が多い。相談できる等サポート体制が必要。

20代～40代の世代の業務は、建築だけではなく様々な業種が絡んだトータルな活動となっている。今後の建築の業務がどのようになってくるのか見据えながらサポート体制も構築していくべきと考える。

- ・山中木造専門委員長

寺本委員長の仰る通り若い人のサポート体制が必要だと考えている。事務所を立ち上げたが事務所協会は知らない人が多い。事務所協会が何の為にあるのか、入って何があるのかをアピールしていく必要があるのではないかと。

今のメニューは熟練の方や大きい事業をやる人向けが多いと感じる。それも大事だが、会員の7割が木造に関わっており、ほとんどの方が小規模から始めている。その事も考慮しすすめてほしい。

神奈川でなくてはならない地域的な考え方を伝える事によって若い会員が増えるのではないかと。

コンテンツの出し方として、アプリ化し会員限定で配布する方法もある。

又、講習会はサポートセンターで進めていくのか。委員会で動いていくものなのか。今後の委員会活動に向けて確認しておきたい。

→講習会は委員会が中心となり進めていただき、全体を見て力を入れたい内容等があった際には各委員会にお願いする事となる。その際には対応していただきたい。(永島業務支援担当副会長)

⇒各意見を反映させてスピーディに進めていきたい。各委員会の協力体制が必要と認識していただいたことが今日の成果である。(小山業務支援委員長)

東京会のコンテンツはマネジメントの支援。神事協でやろうとしているのは、神事協独自に会員に役に立つ事である。委員会活動そのものがコンテンツの一つとの認識を持っていただきたい。(杉本副会長)

2. 各委員会の令和4年度の取り組みと新規事業について

- ・三村総財務委員長

毎年新しい試みをやってきている。(トライアルメンバー・会費無料キャンペーン・ウェブ講習会申込・マイクロソフトフォームズ・zoom 等)

それぞれ改善が必要と考えており、ブラッシュアップしより良いものを作り上げていく。

- ・小山業務支援委員長

(仮称) サポートセンターをスピーディに進めていく。引き続き講習会スケジュールの調整も進めていく。

- ・白川広報情報副委員長

昨年度は SNS 情報発信について・バナー広告の検討・HP の作成に関する業務支援委員会との連携を進めていた。

SNS 等情報発信方法については新しい体制で精査をし、対応方法を検討しプッシュ型の情報発信を進めていきたいと考えている。

- ・平野ブロック支部委員長

会員増強一環として、新規開設者講習会・地引網大会・スポーツ大会・しごと展の4つの大きな柱で進めている。今年は3年ぶりに地引網大会を開催する。

- ・齋藤指導委員長

八王子の屋外階段崩落事故を受け「木造の屋外階段等の防腐措置等ガイドライン」の運用が開始された事から、8月10日(8/23日録画配信)に『木造の屋外階段等防腐対策のポイント実例』講習会を開催する。木部と鉄部の接合部があればすべてに該当することから、多くの方に受講いただきたいと考えている。

また、以前も説明した日事連のテキストを使用した『開設者・管理建築士のための管理研修会』を、開設者・管理建築士の質の向上及び会員増強のために、事務所登録新規・更新時の必修研修会とするよう、階段崩落事故調査等の件でパイプが出来た県建築安全課に働きかけたい。

→管理研修会に関しては、全国40単位会で開催しており知事指定は30単位会である。

講習会に関しては指導委員会が扱っている内容も含まれますが、今後は講習会の組み立てに関しては業務支援委員会とブロック支部委員会と指導委員会で整理し、県に対する対応については知事指定の判断も含

め正副会長会で登録手数料関係も絡め総合的に行き、夏前までに詰め秋口には講習会を開催するよう進める。(白井会長)

・横山青年部会運営委員長

支部間の交流を広げる為にも、来年度に向けて青年部主体でしごと展を開催するよう準備して行く予定。今年度は2分間くらいの動画を準備しストックしていく。ライフハック動画「so easy」のQRコードを活動報告に載せておいたのので後ほど確認していただきたい。この神事協バージョンを作っていければいいと思う。アプリ化等も考慮し次世代に繋げる土台を5～10年のスパンで作っていければよいと考えている。

・加藤会報誌編集特別副委員長

新しい体制になり各委員の人となりを知りたいとの事から、各委員の写真1枚地元の名所(桜)の紹介記事を掲載した。

・粕谷マンション等の大規模修繕業務特別委員長

改修設計の業務報酬基準を段階的にまとめホームページに掲載する事を進める。

国交省の係長を講師に迎え、7月26日に「マンション管理計画制度と各種ガイドライン策定・改定と設備・エコ改修から100年マンションの商品企画」講習会を開催する。

・渡邊「住・緑・家」運営特別委員長

横浜市青葉台千草台の第2次審査が明日開催される。

地道に行政を廻り、「住・緑・家」の営業活動を行っていききたい。

新委員が2名加わり、新しい体制となった。

・寺本景観・まちづくり特別委員長

景観整備機構の活動の一環として、相模原市で定期勉強会を行っている。また、他の自治会にも働きかけを行っていききたいと考えている。

まちあるきに関してはオンラインでのやり方を模索している。

・山中木造専門委員長

今年度は、ほぼ毎月講習会・見学会開催の企画をしている。主の目的としては、2025年を目途に閣議決定が進んでいる4号特例縮小又は廃止の動きを見据え、建築士事務所としてやるべきことをやれるように振り返っている。省エネ義務化・特例廃止になっても会員には問題のないように、目標としては住宅1棟一人でするようにしたいと考えている。

中大規模・耐震・伝統系に関しても取りこぼしのないよう広げていきたい。

7月21日に「木造建築物の基本講座(2)」2020改正建築士法に対応した図書作成講習会を開催する。

→4号特例廃止・省エネの対応については、今後事務所協会の肝となると考える。会としてどのように進めるか木造専門委員会を中心に進めていただきたい。(白井会長)

⇒建築士事務所として何が必要かを考えながら、委員会事業を進めていただきたい。(白井会長)

3. 今後の会員制度の検討

定期講習を受講できない等で長く会員であったが廃業される方の会員制度について、早急に会長・杉本副会長・総財務委員会で作るべき台を作り進めていく。

4. ホームページ上における賛助会関係情報の表示改善について(賛助会担当副会長より)

現在、当会ホームページにおいての賛助会関連の表示がわかりづらくなっていることから、ホームページの再構築等(改善)の検討が広報情報委員会宛に検討依頼が出された。

→広報情報委員会でホームページの賛助会関連の表示再構築等(改善)を進めていく事となった。

5. 青年部会運営委員会のYouTube公開について(青年部会運営委員会より)

青年部会運営委員会でFacebookグループやYouTube活用について、現在止まってしまっている経緯が横山委員長より説明された。

→広報情報委員会でSNSガイドラインの方向性の検討を進め早急に発信する。(杉本広報情報担当副会長)

6. その他

・9月15日(木)16日(金)に大和シリウスで賛助会フェアを開催する。出来ればこの日程・大和周辺で委員会を開催し、フェアに参加していただきたいとの話しが白井会長よりあった。

・日事連が行った「会員増強活動に関するアンケート2019の最終報告」が示され、他会が行っている取り組みを参考にし、各委員会でも取り組める事を検討して欲しいとの話しが白井会長よりあった。

→「会員増強活動に関するアンケート2019の最終報告」を各支部長へ送付する事となった。

○小松副会長挨拶

次回委員会 令和4年8月19日（金） 15：00 ～ 16：30

以上

2021～2022 年度 第 8 回 一般社団法人神奈川県建築士事務所協会 (拡大) 統括委員長会 議事録			
開催日時	令和 4 年 8 月 1 9 日 (金)	会 場	Web 会議
出席者	会長 白井勇 副会長 大和田優 山口英生 杉本勝郎 永島優子 山口雄 小松正道 総財務委員長 三村邦彦 業務支援委員長 小山美智恵 ブロック支部委員長 平野武洋 指導委員長 齋藤清 青年部会運営委員長 横山尊重 会報誌編集特別委員長 小泉厚 マンション等の大規模修繕業務特別委員長 粕谷秀樹 「住・緑・家」運営特別委員長 渡邊靖 景観・まちづくり特別委員長 寺本勉 災害時対策特別委員長 早川慶太 木造専門委員長 山中信悟 専務理事 酒井弘幸 事務局 小林恵美		
○白井会長挨拶 ○司会進行 杉本副会長 ・事前に配布された前回議事録を各自確認した。 <議題> 1. (仮称) 会員サポートセンターについて 永島業務支援担当副会長より、資料「2022 年度後期 活動計画案」を基に、コンテンツ及び今後の流れの説明がされた。この計画案は、さらに正副会で検討し、9 月理事会で、承認を受ける予定とする。 広報計画としては、神奈川県建築士会創立 70 周年記念誌に、神事協サポートセンター設立宣言の広告を出す予定で進めているが、その記念誌が 11 月 22 日に配布されることがわかったため、会員に向けての周知は、その前の神事協会報「KANAGAWA」11 月号に記事 1 頁又は 1 枚刷り (A4) で行う必要があることを確認した。 2. 建築士法第 27 条の 2 第 7 項に基づく講習会実施に向けての取り組みについて 1) 知事指定に向けての検討について 講習会を実施し、実績を積んでから県に働きかけるとの話が永島副会長よりあった。 2) 日事連「開設者・管理建築士のための建築士事務所の管理研修会の実施」について 業務支援委員会でプログラムを作成し、内容によってブロック支部委員会及び指導委員会が担当する事となった。 3. (一社) 神奈川県建築士会創立 70 周年記念事業への対応について 広報情報委員会で作成したレイアウト (案) が画面共有にて示され説明された。レイアウト (案) を基に業務支援委員会で作成する事となった。 4. 2023 年度 (令和 5 年度) 予算策定スケジュールについて 事前に配布された資料を基に、11 月 18 日の理事会で予算方針発表し、その後委員会及び支部宛に策定依頼を配信するとの説明が三村総財務委員長よりされた。 9 月 9 日に開催される支部長合同ブロック支部委員会でも説明するとの報告があった。 5. 委員会報告 1) 総財務委員会 (三村総財務委員長) 支部財産の明確化に向けた取り組みについて、上限の設定及び特定資産の創設について進めている。9 月 9 日の支部長合同ブロック支部委員会で話をしたうえで、11 月の理事会に上程する。 日事連全国大会 (熊本大会) 参加補助について、今年は参加人数が少なくコロナ禍の大変な時期にご参加いただく事等から、例年 4,000 円の補助額を 10,000 円に増額する事を提案し、本日の正副会長会で了承された。 2) 業務支援委員会 (小山業務支援委員長) メインは (仮称) サポートセンターについての検討を進めている。 日事連・JAAF・MST 担当委員に江間委員を、(公社) かながわ住まいまちづくり協会「災害時住宅相談体制検討会」委員に永島副会長、酒井専務理事を推薦する事を決定した。			

11 月に開催予定の「災害時相談員のための勉強会」の講師を賛助会員に依頼する事となった。

3) 指導委員会 (齋藤指導委員長)

8 月 10 日に「木造の屋外階段等防腐対策のポイント実例」講習会を開催した。神奈川県建築指導課からも講師を派遣いただき内容も濃い講習会となった。受講申し込み者は 41 名。

「開設者・管理建築士のための建築士事務所の管理研修会」だが、事務所協会に入会していない建築士事務所、管理建築士がたくさんいる。開設者の方に建築士事務所協会をアピールし進めていってほしいとの話しがされた。

4) 青年部会運営委員会 (横山青年部会運営委員長)

今年度・来年度・5 年後のロードマップを作成し取り組む事業等の整理をし、実際に動き始めた。

今年度・来年度は青年会員の現状 (今困っている事、悩み、実際にやっている事、どんな繋がりがほしい等) を情報共有しプラットフォーム作りを行う事と、青年の活動の場を広げて仲間を増やす事の 2 本の柱で活動する。

Facebook (非公開) で仕事の成果物、仕事の一部 (模型の作り方等)、自己紹介、DIY 等の動画投稿 (サンプル) を出し合って、実際の運用に向けて具体的に検討している。

また、青年部主体で、支部間の垣根を越えて行う神奈川会独自のしごと展 (Web (ハイブリッド) 開催) の準備を進めている。

5) マンション等の大規模修繕業務特別委員会 (粕谷マンション等の大規模修繕特別委員長)

7 月 26 日に「マンション管理計画制度と各種ガイドライン策定・改訂」講習会を開催した。受講者は 23 名。制度について報道された国交省の担当部局に直接連絡し講師を依頼し引受けていただいた経緯がある。国交省職員に講師をしていただき今後の足掛かりになった。

6) ブロック支部委員会 (平野ブロック支部委員長)

9 月 9 日 (金) に支部長合同ブロック支部委員会を参集での開催を予定していたが、コロナ感染拡大の状況により web 開催に変更した。来週、事務局より周知をさせていただく。

新規開設講習会、地引網大会、スポーツ大会、しごと展の 4 本の柱で活動している。

7) 会報誌編集特別委員会 (小泉会報誌編集特別委員長)

1 月から現在の「支部だより」のページを「支部のページ」とする予定。支部の掲載順番を決め、次回理事会に報告する予定。

また、今年度は 1 年間を通した特集記事を掲載しているが、次回委員会で来年度も 1 年間通した企画を検討する。

8) 「住・緑・家」運営特別委員会 (渡邊「住・緑・家」運営特別委員長)

現在動いている案件はないが、県下市役所 (自治会館補助金有) に「住・緑・家」の周知活動を行った。

また、日事連組織強化支援事業に採択された「住・緑・家」作品集作成をすすめる。

9) 景観・まちづくり特別委員会 (寺本景観・まちづくり特別委員長)

日事連組織強化事業に採択された「景観整備機構の専門家等」について、パンフレット等作成を進めている。また、相模原市の景観整備機構として、市内の景観に寄与するものを紹介していく活動の中で、J-COM の番組「ぞっこん! 相模原」の 5 分程の枠を相模原市と連携し運用している。今回、委員会で監修したものが出来上がり放映され始めた。後ほどメールで送付するので見ていただきたい。

その他の行政に向けても景観整備機構への働きかけを随時行っている。

10) 災害時対策特別委員会 (早川災害時対策特別委員長)

3 年ぶりに県からの業務委託を受け動き始めた。

業務委託の内容としては、応急仮設住宅のバリアフリーに配慮した標準仕様と標準プランの策定。

直近の予定として、9 月 2 日に県と政令指定都市及び協定団体に対してヒアリングを行う。

11) 木造専門委員会 (山中木造専門委員長)

現在までの半年で講習会 2 回見学会 1 回を予定通り開催した。

今後の予定として、9 月 3 日限界耐力計算による現場で実地講習会、9 月 22 日木造建築物の基本講座 (3) 仕様規定の見直し等の講習会、10 月 20 日安井昇先生を講師にお招きし防耐火建築物の最新情報・防耐火について法改正の見直し等の講習会、11 月 24 日耐震診断及び耐震補強設計の基本講座、文化財建造物保存修理工事 (本禅寺本堂) 完成までの道のりを動画コンテンツとして配信等を企画している。

また、中大規模の講習会を年度内に行う予定。

12) 広報情報委員会 (杉本広報情報委員長代行)

会員の為になる事を考える委員会として動いている。神事協をアピールする為に、SNS 等の利用も積極的に進めていく事を考えている。

6. 正副会長より

- ・白井会長
各委員会の活動が（仮称）サポートセンターのコンテンツとなる。連携し、会の魅力としていってほしい。
木造専門委員会は、幅が広いが色々な切り口で活発な活動をしていただいております、頼もしいと感じている。
「住・緑・家」や景観・まちづくりが行っている日事連の組織強化事業だが、来年度以降3、4年続く、他の委員会も制度を使って成果に繋げていってほしいと考える。
青年部のロードマップは、数年先を視野にいた活動がありがたい。新しい会員を仲間に入れるきっかけになると考える。
拡大委員会にしたのは、意見を聞くだけではなく、一つにまとまりながら流れを作り、広報に取り上げ外に発信できればと考えている。
- ・大和田副会長
（仮称）サポートセンターに関して、各委員会の立場で様々な意見が出ている。各委員会からコンテンツ持ち寄って内容のあるサポートセンターを作っていく為に、今後ともご協力をお願いしたい。
- ・山口雄副会長
建築士法第27条の2第7項に基づく講習会について知事指定に向けてとの話があったが、知事指定の段階を踏んで最終的には必修に持っていかななくてはならないと考えている。必修にしなければ、受講者の確保が難しい。必修に向けて各委員長からも知恵をいただきたい、その際はよろしくお願いします。
- ・永島副会長
前回の拡大統括委員長会では、（仮称）サポートセンターについて、様々な意見をいただき実りのある委員会となった。今回は意見をいただく時間がなかった為、意見等があれば事務局にメールで提出してほしい。
また、今後は協力をいただく事が多いと思うがよろしくお願いします。
業務支援委員会で行う予定の「災害時相談員のための勉強会」だが、2020年度に実施した勉強会の継続シリーズとして実施する。相談の延長にある復興の際に会員が行う支援活動の場がある。今週行う県との意見交換の場でも、神事協が、台風19号で経験した相談体制を、このように勉強会を通して継続していることをアピールしていきたいと考えている。
- ・小松副会長
（仮称）サポートセンターという核をもって、様々な意見を持ち寄り皆さんが一つにまとまって、とても良いムードと流れが出来ているのを感じている。このままサポートセンター設立と共に今後の神事協の活動にも繋がると考えている。
- ・山口英生副会長
この3日間、神奈川県建築コンクールの審査員をした。
最終選考に残った8割は3団体どこにも所属していなかった事が残念であった。
資格者として社会貢献スタンスを持ち、デザインよりコストや家族が将来どのようなようになるか、近隣との関係性等、事務所協会的なスタンスで評価をしてきた。
事務所協会あり方、そういった事も波及力を持ってやっていきたいと考えている。
- ・杉本副会長
公共性・社会性を背負ったインフラの一つを作る設計者としての視点を持ち、神事協は活動を行っていく。
委員会として（仮称）サポートセンターのコンテンツを機能させるため、今後ともご協力をお願いします。

次回委員会 令和4年10月21日（金）15:00～16:30

以上

2021～2022 年度 第 9 回 一般社団法人神奈川県建築士事務所協会 （拡大）統括委員長会 議事録			
開催日時	令和 4 年 1 0 月 2 1 日（金）	会 場	Web 会議
出席者	会長 白井勇 副会長 大和田優 山口英生 杉本勝郎 永島優子 山口雄 小松正道 総財務委員長 三村邦彦（欠） 総財務副委員長 石渡規由 業務支援委員長 小山美智恵 ブロック支部委員長 平野武洋 指導委員長 齋藤清 青年部会運営委員長 横山尊重 会報誌編集特別委員長 小泉厚 マンション等の大規模修繕業務特別委員長 粕谷秀樹 「住・緑・家」運営特別委員長 渡邊靖 景観・まちづくり特別委員長 寺本勉（欠） 災害時対策特別委員長 早川慶太（欠） 木造専門委員長 山中信悟 専務理事 酒井弘幸 事務局 磯部崇 野口友弘 小林恵美		
○白井会長挨拶 ○司会進行 山口英生副会長 ・事前に配布された前回議事録を各自確認した。 <議題> 1,（仮称）会員サポートセンターについて 1) 9/16 の理事会にて検討・報告された『（仮称）会員サポートセンター設立検討 2022 年度後期活動計画』について、配布資料を基に永島副会長より説明された。 日事連にワーキングが設置されたことから日事連とも連携を図り、2023 年の総会後の設立を目標とし進めていくとの話があった。 2) 業務支援委員会より各委員会担当副会長及び委員長に依頼したコンテンツについて、現段階での取り組み状況等の報告が各委員会よりあった ・総財務委員会 業務災害補償プラン・設計図書保管サービスについて、外部委託の方向で考えているが、次回委員会（11/10）に提出し東京会で行っている同じサービスの検証を含めて調整・検討する。 →業務支援委員会では同じく外部委託と考えている。業務災害補償プランについては日事連サービス、設計図書保管サービスについては東京会が利用している N T T 関連会社からのヒアリングが必要。業務支援委員会と連携しヒアリング等を行い進めていきたい。（永島副会長） スケジュールについては、委託業者の工程に併せて進めるしかなく、業務支援委員会が示しているスケジュールで進めていくのは難しいと考えている。検討を行っていくための会議を次回委員会で行う。 （山口英生副会長） ・ブロック支部委員会 専門家紹介・協力事務所紹介サービス・事業継承について、11/7 の委員会で検討したいとは考えている。委員長個人としての意見もあるが、一旦委員に諮り進めていきたい。11/7 以降報告させていただく。 問題点等としては、内容がとてもヘビーであり、実際動き出した時に別の組織を作るのか、受け皿がどこになるのか、事務局でもブロック支部委員会でも不可能と考えている。外部委託にするとしても問題がある。委員の方に確認をしながら慎重に進めるべき内容だと考えている。 まずは、受け皿はどのようにするのか、資金はどうするのか、日事連・東京会と連携して動くとするば、そのフローはどのようにするのかを示してほしい。 また、運用規則も必要であり、ブロック支部委員会で勝手に振り分けてはいけないと思う。 出来るところから始めるというのは重々承知しているが、まずはフローをたたき台でもよいので示してほしい。（平野ブロック支部委員長） →事業継承・廃業等の支援については、東京会で行っており保険に関する事は日事連サービスがやっている。そこを踏まえて検証し、神奈川県弁護士会として出来る事、出来ない事の仕分けをしていただきたい。 専門家の紹介は既に神奈川県弁護士会と協定を結んでいる。また、日事連サービスが弁護士との相談を無料で 3 回まで行っている制度もある。会計士・社労士に関しては神事協が依頼しているところと調整し進めていただきたい。 協力事務所紹介はかなり前からデータをとっている。そのデータを整理・参考にして、協力できる事・			

望まれている事を検証していただきたい。(白井会長)

→イメージをお伝えする。協力事務所紹介サービスは会員の中で専門性があり、どのような仕事を受けたいか外部の人にわかりやすく示していく事だと思っている。現在、HP 会員ページに『会員業務協力情報ネットワーク』があるが、そのリニューアルではないかと思っている。簡単にいうと名簿を作る事である。実際 HP でどのように作っていくとなると、広報情報委員会とも連携して進めていっていただく必要がある。

弁護士・会計士・社労士・税理士等の専門家紹介に関しては、協会同士の連携のとりかたの方向性を検討していただきたい。簡単にいうと名簿の作成、協会同士の約束事を作る事だと考えている。

(永島副会長)

→名簿作りでもかなりパワーが必要だと考える。相手の確認も取らなくてはならない。今後ご協力いただけるところは協力していただきたい。

また、スケジュールについては改めて確認させていただきたい。

方向付けとしては、具体的には名簿作り。次回委員会で方向付けの検討は行っていきたいと考える。

(平野ブロック支部委員長)

・指導委員会

履行保証・実務文書フォーマット提供について、委員会では提議として挙げていない。それ以前の段階として、こういった作業が今の指導委員に求められるものなのか出発点として理解していただかなくてはならない。古い資料を再検証する行為をなぜ指導委員会がやらなくてはならないのか。

委員長として、全て出来ないと答えとさせていただく。

指導委員会としてサポートセンターの支援は、外向きには、苦情相談・弁護士会との交流・行政との問題対応・災害時の対応、内向きには、会員向けのトラブル相談またトラブルを未然に防ぐための講習会開催、新規講習会への講師派遣、既存住宅状況調査技術者講習会への講師派遣を行っている。今後更新時の講習会があれば講師を派遣し事務所登録イコール事務所協会に入会する内容としていきたいと思っている。

委員にこれ以上の負担を強いるわけにはいかない。全て拒否せざるを得ない。

また、サポートセンターの趣旨が見えなくなっている。枝葉ばかり見せられても困る。

(齋藤指導委員長)

→指導委員会を担当している吉田業務支援委員から『履行保証については委員会で検討中。HP 掲載のコンテンツについて、今はない技術専門委員会が行っていたものなので出来ないが、残すものと消去するものについては協力をいただきます。』との回答があったと、業務支援委員会から報告があった。

→専門外の事も有るがそこを含めて協力していきながら、全体像を埋めていきたいとの趣旨である。

実務文書については、改訂まで含めてやれと言っているのではなく、必要不要整理をしていただきたい。

(白井会長)

→委員長と吉田委員とも話しをしている。全体的には、指導委員会で検討する内容にはふさわしくないとと思っている。サポートセンターは神事協にとって大切な事だとはわかっている為、指導委員会としてやっていかなくてはならないとは重々承知しているが、この1、2ヶ月の短い期間のなかでは、委員会としてあげていく、また委員会で検討するかも含めて答えを出すのは厳しいと考えている。

ホームページにあげていくとなると責任も発生し、条文の内容等があるか確認していかなくてはならないので、1、2ヶ月の中では難しいと考えている。(山口雄副会長)

→今回は下検討なので、時間がどれくらいかかるか等のボリューム感の話しができればいいと思っている。担当副会長としてうまく詰めていってほしい。(永島副会長)

・青年部会運営委員会

他の委員会と同じく時間の無い中で、コンテンツについて方向性を決めなくてはならないとの事で、先日の委員会で初めて議題をあげた。

コンテンツについては、委員会で新たな動きとして計画している内容の中で、できるだけ労力をかけずに効果的にどこに結びつけるかを検討していく。委員会がこれからやろうとしている事と絡めて運営していけばとの考えのもと、資料で提出した中間報告としてまとめた。具体的な内容やスケジュールに関してはアイデア段階であり、具体的な事は進んでいないが今後の委員会で検討していく。

個別事務所向け戦略企画講習会についてはB I M講習会を絡めて、支部向け戦略企画の講習会については支部長合同ブロック支部委員会での交流を絡める事で検討していきたい。

委員会としては、委員会主催のしごと展開催・フライヤーをつくる事で新規開設者や会員外を取り込む事で、会員サポートとしてやっていければいいと考えている。(横山青年部会運営委員長)

・広報情報委員会

講習会サポートについては、受講料の検討・アーカイブの映像の著作権・責任の所在・帰属・注釈等をチ

エックしながら外に出しても問題がないものをふるいにかける作業となると考える。様々な委員会でアーカイブがある事から、他の委員会とも連携して進めていかななくてはならない。
アーカイブ受講については、いつでも受講できるまた課金システムについても検討をすすめる。
ホームページ開設については、委員会自体がサポートセンターのホームページへの掲載方法等を検討し作成するうえで整理し、ホームページ作成の道筋をまとめていければと考えている。
今後の委員会で委員の意見を持ち寄って打ちあけていく。(杉本広報情報委員長代行)

- ・建築物耐震改修評価特別委員会

構造関係の仕様書の見直しについて検討した結果を、提出された資料を基に説明された。
神事協として新しい書式を作成するのは、作業量・時間を考えると大変なこととなる。
今ホームページに掲載しているものは古い為、削除しかない。
今後神事協として、作業量・時間をかけて新しい書式を作る必要があるか、東京会ホームページをリンク
（「建築構造設計指針 2019」の資料にある「新構造標準図」は古いデータ。2021 年改訂版を画像データで販売している）するか、今後協議していただく必要がある。

(小松建築物耐震改修評価特別委員会担当副会長)

→東京会からは、一緒に出来るところは連携を取り一緒にやっていければとの話をもらっている。東京会で最新情報があるようであれば、利用させてもらえばよい。(白井会長)

- ・マンション等の大規模修繕業務特別委員会

マンション等の大規模修繕業務報酬算定方法について、令和 3 年度から委員会で検討している。
令和 4 年 4 月発行された、マンション等の大規模修繕業務に特化した契約書（約款）に沿った算定方法となっている。
委員会で検討・作成し、令和 4 年度中に完成させ、サポートセンターのコンテンツとして提案する予定。
(粕谷マンション等の大規模修繕業務特別委員長)

- ・木造専門委員会

資料の見直しについて、検討を進めるにあたって相当膨大な量があり、ほとんど 10 年以上前のものである。
情報が古く他団体でいいものもある事から、全部を作る変える気持ちはない。まずは委員長として、いる・いないを検討し委員に諮りたい。
委員会として、今年度は講習会をあと 4 回開催予定等がある為、これ以上委員に負担をかけられない事から、来年度に予算を上程しやる事を絞っていかうと考えている。
お願いとなるが、優先的に行わなければならないものの選定の為、現在掲載されている資料についてダウンロード・利用率を調査していただきたい。
スケジュールについては、今年度の終盤から来年度にかけて動く担当委員を決めた段階。年度内には、いる・いないを見極めて、調査については来年度行う予定。
また、先日行った web 講習会のアンケートに、会員ページの資料が認識されているかとの項目を入れた。
35%がページ（資料）を知らない。掲載にあたって利用率を見直す必要があるのではと感じた。あったら使いたい、もっとサポートを得たい、これからの木造が気になる等の強い意見もいただいている事から、委員会として進めていきたいとは考えている。(山中木造専門委員長)

木造専門委員会では、講習会・見学会等をとても熱心にやっただいて。現在専門委員会の木造専門委員会については、幅が広い為どこにターゲット絞ったらよいか検討した結果、専門委員会となった経緯がある。次年度以降、専門委員会から特別委員会へ変更したいと考えている。担当副会長から方向性等をあげてもらい、次年度組織作りの際に検討を進めたい。(白井会長)

⇒続けて検討して頂き、11 月の理事会で報告していただくこととした。

2. 管理建築士講習受講要件について

現在、管理建築士が不足している。建築士になって管理建築士の資格を取る為には、建築士事務所へ所属し 3 年の実務経験が必要となっている。管理建築士の資格がない為、新規に事務所を開設出来ない若い人が多くいる。新規開設した事務所を応援するのはわかっているが、新規開設する為に若い建築士の応援もしていきたいと考えている。
管理建築士講習受講要件として、3 年の実務経験ではなく事務所協会に加入する事を条件とする、または数ヶ月のインターンシップを行い仮免許で事務所協会に加入する事を条件とする等、日事連から働きかけるよう会長にお願いしたい。(齋藤指導委員長)

→出来ない事はないと考える。神奈川県では毎年 100 事務所程が減っている。母数が減れば会員数が減るのは目に見えている。ご提案いただいた事も一つの手段ではあると考える為、日事連の法令等の検討委員会に懸案事項として話はしてみる。(白井会長)

3. 次年度の委員会の取り組みについて

11 月の半ばに来年度の予算方針及び活動方針を出すので、それに沿った各委員会の方向性を検討していただきたい。(白井会長)

1) 木造専門委員会より

多く講習会をしている中でも基本講座を多くやっている。講習会の案内の届くアドレス等の宛先(案内先)が事務所の所長宛が多い。所員や若い方に直接届くシステムが出来ればいいと考えている。目的としては、若い方(所員)の講習会受講にも繋がり、若い方が独立した際に神事協に加入すれば技術援助等がずっと受けられると思っていただければ、会員になるきっかけにもなるのではないかと考える。

その為に、青年部会運営委員会等で枠組みシステム(講習会案内システム)を構築していただく事をお願いしたい。(山中木造専門委員長)

→所員のうちに神事協に関わり中身を知り、独立の際にもアドバイス等を行い、その後正会員となっていた例もある。取り組み方法等を今後検討していきたい。

今の時点では、新規開設講習の際や青年部該当者への声掛け(働きかけ)を先にやらなくてはならないとは考えている。(横山青年部会運営委員長)

→すぐ今出来るとすれば、案内のメールの際に目立つように『所員の方にも案内をお願いします』と一言付け加える事ではないか。(山口雄副会長)

→メールの送付方法等、工夫していかななくてはならないと事務局と話している。(山口英生副会長)

2) 指導委員会より

5 年ごとの事務所登録更新時の開設者向け講習会について、次年度から始まるとは思っているが、従前から話がある義務付けが会員増強に繋がる会員・非会員の差別化の為に必須だと思っている。

許認可権を持っている会長からの働きかけをしても、義務付けは難しいのか。また、神奈川県在所管課や議員連盟等に要請を出す予定はあるのか。(齋藤指導委員長)

→全国でも指定・必修講習となっている例は何件かある。その県は会員加入率も確かに高い。

県知事指定・必修を取るのには、ダイレクトに持っていくのは難しい事から、講習会をやり違う方向から話をし、徐々に進めていければとは考えている。(白井会長)

4. (ブロック支部委員会依頼) 令和 4 年度しごと展補助金の本会予算利用について

令和 4 年度のしごと展補助金について、予算 60 万円を計上しているが、9 支部 67 万 6 千円の申請が出されていることから、不足分の 7 万 6 千円を本会予算より支出し、支部へ支払うこととしたいとの検討依頼があった。

→関東甲信越ブロック協議会から出ているキャンペーン費用 10 万円、組織強化の為に 10 万円から不足分の 7 万 6 千円を支出する事となった。

5. (「住・緑・家」運営特別委員会依頼) (仮称)「住・緑・家」コンペ自治会館版講習会～「住・緑・家」コンペ必勝法を身につける～実施に係るご協力等について

講習会開催にあたり、なるべく多くの会員(所員含む)の方々にご参加いただく為に、集客方法等も含め、アドバイスや協力をお願いしたいとの検討依頼があった。

また、「住・緑・家」コンペ自体を知らない方も多い事から、コンペの周知方法も検討いただきたいと話があった。委員会としては、他の委員会の講習会とコラボ・賀詞交歓会の一つのイベント等としての開催を考えている。「住・緑・家」作品集を日事連単位会助成事業で作成中だが、40 周年記念誌のように表紙コンペを開き、講習会の際に表彰式(選考結果を発表)を行う事も検討している。

→「住・緑・家」運営特別委員会の動きを各委員会で認識し、来月くらいまでに提案があれば出す事となった。

6. 委員会報告

事前に配布された委員会報告資料を各自確認した。

1) 木造専門委員会

今年度の今後の事業について説明がされた。

・ 11/24 「耐震診断及び補強設計の基本講座」(講師:堀池委員)

- ・ 2 月頃「中大規模木造建築物の設計法（仮）」（担当：田中委員（ナイス（株））
 - ・ 3/24 「伝統的構法の設計法（仮）限界耐力計算を採用した利活用実例」（講師：山中委員長、内田委員）
 - ・ 文化財建造物保存修理工事（本禅寺本堂）完成までの道のり動画配信
- 2）ブロック支部委員会
- スポーツ大会が 10/29 に開催される。名簿が揃って対戦表を作成している段階。賛助会を含め 16 チーム・総参加人数約 80 名との説明があった。

○閉会挨拶 杉本副会長

次回委員会（拡大統括委員長会） 令和 4 年 12 月 16 日（金）15：00 ～ 16：30（予定）

以上

2021～2022 年度 第 1 0 回 一般社団法人神奈川県建築士事務所協会 (拡大) 統括委員長会 議事録			
開催日時	令和 4 年 1 2 月 1 6 日 (金)	会 場	Web 会議
出席者	会長 白井勇 副会長 大和田優 山口英生 杉本勝郎 永島優子 山口雄 小松正道 総財務委員長 三村邦彦 業務支援委員長 小山美智恵 (欠) ブロック支部委員長 平野武洋 (欠) 指導委員長 齋藤清 青年部会運営委員長 横山尊重 会報誌編集特別委員長 小泉厚 (欠) マンション等の大規模修繕業務特別委員長 粕谷秀樹 「住・緑・家」運営特別委員長 渡邊靖 景観・まちづくり特別委員長 寺本勉 (欠) 災害時対策特別委員長 早川慶太 (欠) 木造専門委員長 山中信悟 専務理事 酒井弘幸 事務局 磯部崇 野口友弘 小林恵美		
○白井会長挨拶 12 月 14 日に開催された日事連 60 周年記念式典に会長と大和田副会長で出席した。その際のシンポジウムで横須賀支部の菅股氏の発表があった。日事連会報誌 3 月号に掲載予定となっているとの話があった。 ○司会進行 大和田副会長 ・事前に配布された前回議事録を各自確認した。 <議題> 1. 「(仮称) 会員サポートセンター」現状報告」 1) 各委員会への検討事項についての回答まとめ 業務支援委員会より各委員会へ依頼された事業に係る検討結果について、「(仮称) 会員サポートセンター事業に係る各委員会への検討依頼回答状況 (まとめ)」資料を基に、永島業務支援担当副会長より説明された。 2) 会員への説明会実施について 会員に向けた web 説明会を 1 月 31 日 (火) に開催するとの報告が永島業務支援担当副会長よりあった。コンテンツについて、全会員向けのアンケートの結果を参考に最終決定したいと考えている。より実態に沿ってアンケートに答えていただく為には、内容を知っていただく必要があると考え、アンケート実施前に説明会を実施する。 3) 会員へのコンテンツ検討アンケート (案) について 業務支援委員会作成のアンケート (案) が提出され、永島業務支援担当副会長より説明があり、意見・アドバイス等が求められた。 スケジュールについては、1 月 20 日の理事会にアンケート (案) を提出し、内容について確認・承認を得て、1 月 31 日の説明会後にアンケートを実施する。アンケートの回答期間は 2 週間程とし、2 月 17 日の統括委員長会にアンケートの結果を提出し、コンテンツのラインアップを決定する予定である。 (意見等) ・今この時期にこのアンケートやる意味があるのか。 アンケートの結果によってまた考え直すとの事なのか。(三村総財務委員長) →意味はあります。目的の一つとして皆さんがどう考えているか意見を聴取する事だが、他にサポセンについて全会員に周知する事も含んでいる。また、名称の募集も今後行う予定でありその伏線とも考えている。 (永島業務支援担当副会長) →今の話しかから項目はここまでなくてもいいと考える。アンケートの結果をフィードバックするような時期ではないのに、細かい項目は必要ないのではないか。周知活動・名称の募集であれば、もっとシンプルなアンケートにした方がよいのではないかと。スタートしてからの要望を聞く為のアンケートなら実施するする意味もあると思うが。(三村総財務委員長) →そのような意見の方もいらっしゃるが、なぜ意見を聞かず進めるんだという人もいると考える為、やった方がいいと判断する。また、質問を増やす事も検討している。(永島業務支援担当副会長) ・アンケート項目は回答必須になっているのか。仕組みはどうなっているのか。(山口雄副会長) →5 段階の選択回答については必須、記載項目については自由とする方向で進める。 (永島業務支援担当副会長)			

- ・ 神事協 HP 会員ページの活用に至っていない人が多いのではないか。まずはホームページ（会員ページ）の活用を周知していただき、その後アンケートを実施しないと理解できない人が多いのではないか。
(齋藤指導委員長)

→事務局で対応できるものは事務局で丁寧にホームページに誘導等行う。(磯部事務局長)

→説明会は zoom ウェビナーを使用するので録画もできる。録画配信等も可能なため、事務局でそちらに誘導すればよいと考える。(永島業務支援担当副会長)

⇒アンケートの内容については業務支援委員会でブラッシュアップ等対応する事とし、他に意見等があれば事務局へ送付する事となった。

2. 令和 5 年度予算策定について

総財務委員会より、各予算要求（案）を取りまとめた資料が提出された。

現時点では一般事業費で約 550 万円のマイナスとなっている。一般事業費の内サポートセンターに係る支出が約 400 万円となっている。

今後総財務委員会で検討し、各委員会へ予算の収支ゼロ等の見直しを依頼する事となるとの話があった。

3. 講習会等実施について

1) 「住・緑・家」コンペ講演会（「住・緑・家」運営特別委員会）

賀詞交歓会前に開催される講演会の実施企画書（案）が提出され、内容について渡邊「住・緑・家」運営特別委員長より説明された。

また、その際に各委員会で周知したいコンテンツがあれば、パネルや映像等（イーゼル・モニター）で展示可能なため事務局へ申し出るよう話があった。

2) 「災害時相談員のための勉強会」（業務支援委員会）

1 月 19 日に開催予定の講習会の実施企画書（案）が提出され、内容について永島業務支援担当副会長より説明された。

3) 建築士事務所の開設者研修会の実施について（業務支援委員会）

業務支援委員会、ブロック支部委員会、指導委員会の各担当副会長及び委員長で事前に協議した際の資料実施企画書（案）が提出され、内容について永島業務支援担当副会長より説明された。

実績作りが大きな目的の講習会の為、赤字収支となっている。

3 月に開催を予定しており、内容・日程等について今後打合せし進めるとの話があった。

- ・ 3) の研修会について、受講者が会員 5 名・会員外 5 名となっているが、トライアルの意味で人数を絞って開催する予定なのか。(三村総財務委員長)

→人数を絞るつもりはない。人数が増えれば赤字が増えるため収支上この人数にしている。

(永島業務支援担当副会長)

- ・ 3) の研修会について、更新時 5 年に 1 度受講する講習会と認識していた。そうであれば、会員を勧誘する場として考え、会員と会員外の価格設定を考慮する必要があるのではないか。

また、インボイスをテーマにする事について、制度上 3 人以上の事務所は会計事務所等が付いている為不要ではないか。インボイスをテーマにやるのはこの時期にやる講習としての確ではないと考える。

(齋藤指導委員長)

→5 年 1 度の受講とは特に想定していない。開設者が建築士でないと受講の機会がない為、開設者に受講していただく事を想定している。現在、33 都道府県の知事指定を取っている講習会である。他都道府県では受講料を 8000 円～10000 円と設定している。テキストは必要だが、内容を全部使わなくてもよい。プラスアルファを 3 委員会で検討していただきより受講していただく講習会にしていきたい。

ただ、受講者数が増えると赤字になるというのは困る。最初にうまくやらないと今後の受講者も増えないと考えられる為、値段設定・内容について定期的に開催するシステム作りを委員会の相互の協力を基に進めていきたい。(白井会長)

→受講時期について、毎年受講する事を想定しているのか。(齋藤指導委員長)

→更新時に受講していただくのは次の段階。登録更新の際に受講義務や促進している県もある。(白井会長)

→開設者が建築士でない事務所でその事務所が会員か非会員かを現在事務局で調べている。その結果で受講いただきたい事務所の数が把握できると考える。(永島業務支援担当副会長)

- ・ 3) の研修会について、今年度の初めに業務支援委員会でまとめていただいた、講習会年間スケジュールは同じような内容の講習会が被らないようにとの趣旨だったが、3 月に開催するとなると 2 月に開催する

新規開設者講習会と内容が被ると思うが。

また、2) 3) の講習会について、収入の 10% の事務局経費が計上されていないが意味があるのか。

(山口雄副会長)

→予算が厳しいが神事協として実行していききたい講習会に関しては事務局経費の 10% を省いている。今までもそういったケースあった為、同じような処理をしている。(永島業務支援担当副会長)

→他の講習会でも予算が厳しい場合は事務局経費の 10% を省いてもいいのか。10% は臨機応変に考えていいとのことによいか。(山口雄副会長)

→10% の事務局経費に関してはそう考えているが、必要であれば修正し計上する。

3) の講習会の時期的なスケジュールに関しては、対象者が違うと考えているので 3 月に開催することは問題ないと考えている。(永島業務支援担当副会長)

→事務局経費に関して臨機応変との考え方はない。それをやってしまうと毎回議論しなくてはならない。

事務局経費 10% は計上することは統一するべき。(三村総財務委員長)

→事務局経費 10% は必ず計上することとなった。

4. 委員会報告

1) 指導委員会 (齋藤委員長)

- 先程の会長の説明の中で、開設者研修会を 5 年に 1 度の更新時の受講に向けてとの解釈ではないとのことだったが、ある程度の強制力をもたすためにタイミングを見計らうアナウンスをし、事務所協会への入会のきっかけを作るとのイメージを持っていたことから、認識のずれが生じていると考える。

特にブラックな企業 (建築士事務所) に関しては事務所協会に入会することによって、悪質な行為を防げるとの勉強会なら非常に有意義になると考えていた。きっかけとして、開設時・更新時に受講していただきたいとアナウンスした方がインパクトがある。一般社会に向けて、消費者に対しても従業員に対してもきちんと法令を守った会の一員ですとの事がステータスになれば入会の意味もある

→そういった開設時・更新時に受講促進の方向で進めるのも 1 つの考え方である。アナウンス方法等も今後検討して頂き進めていただきたい。(白井会長)

- 苦情相談業務にて「あっせん」を行ったことが報告された。

また、昨今苦情相談業務において受ける相談内容は、消費者の契約書内容の理解不足、消費者への説明不足、設計施工における契約内容の説明不足が多くある。会員へのクレームを受けている事もあることから、会員に対して苦情出ないような活動を続ける。

- 次回講習会は、3 月 10 日に参集講習会を開催することとなった。

2) 青年部会運営委員会 (横山委員長)

サポートセンターの目指す方向性と青年部会の基本的な活動方針は共通する部分があると考えている。前向きに他の委員会とも連携をしてサポートセンターを青年部会の事業と捉え活動していきたい。

全会員向けのアンケートについて、委員会に投げかけ青年の意見としてまとめ提出したいと考えているが、意見を提出する期限はいつまでか。

→次回青年部会運営委員会 (1/13) に出席し意見を求めたい。(永島業務支援担当副会長)

3) 会報誌編集特別委員会 (杉本担当副会長)

- 紙面の刷新に力を入れ、外部からの寄稿や各委員からわがまちの〇〇 (美術館・桜の名所・初詣) を寄稿し地元感を出し紙面の変化を出している。

- 来年度「無印良品」の「MUJI」を取り上げ、企画等の特集を予定している。

4) マンション等の大規模修繕業務特別委員会 (粕谷委員長)

- 12 月 13 日にマンションの機械式駐車場の工事見学会を行った。施工前・施工中・施工後の三段階の見学ができ、また積極的に質疑応答が行われ有意義な見学会となった。

- サポートセンターの業務報酬については、現段階で図面リストに基づいた算定の仕方の参考資料としてあげる検討を進めている。令和 5 年度に関しては工事約款に基づいて細目をあげ内容については金額が適正か等のアンケートを取り進めていく予定。

5) 「住・緑・家」運営特別委員会 (渡邊委員長)

1 月 25 日 (水) 賀詞交歓会前に講演会、1 月 28 日 (土) 森崎自治会館 (横須賀) 竣工見学会を予定している。また、横浜千草台の施工者コンペを行った。

6) 木造専門委員会 (山中委員長)

- 10 月 20 日開催の防耐火設計の講習会 (安井昇先生)、今までの流れを含めかなり広い範囲の話をしていただいた。11 月 24 日開催の耐震診断関係の講習会 (堀池委員)、ともに内容が濃く大変好評を得た講習会となった。それぞれの講習会でウェビナーアンケートを行い、サポートを希望する内容等の回答をもらっている所以で共有できる機会があれば提供できる。

- 今後の予定としては、2 月 10 日「中大規模木造建築物の設計法」、3 月 14 日「伝統的構法の設計法限界耐

力計算を採用した利活用実例」講習会を開催する。また、「文化財建造物保存修理工事完成までの道のり」動画配信の準備が進んでいる。

- ・サポートセンターの仕様書の整理は来年度となるが、年度内には要否を見極め来年度に向け委員に振り分け進める予定。
- ・次年度も講習会を多く開催する。会員の方には最低限の知識・技術を持っていただくのが委員会としての使命と思っているため基本講座を多く開催する。

講習会運営をしていく中で、耐震診断関係の問い合わせ等が多く、また耐震診断業務におけるクレームや倫理観の欠如が多いと感じている為、耐震診断関係を充実させていきたいと考えている。

○安藤神事協・神奈川賛助会会長より挨拶

5. その他

サポートセンターの基本的な考え方についてお聞きしたい。基本的にサポートセンターとは、一会員の求めに応じてサポートをするとの考え方なのか、あるいは各支部や支部長（支部の代表）から問題が起きた時にサポートを求められた際に対応するのか窓口をどこにしているのか確認したい。

指導委員会に履行保証を任命されているが、個人に直接サポートするものなのか、支部長からの依頼によって派遣するのか確認したい。（齋藤指導委員長）

→履行保証については現在日事連サービスで検討している。支部（支部長）から受けるとの考えはない。可能性として、各個人ではなく神事協が保証機構として対応できるか日事連サービスと検討し進めていくことを想定している。（白井会長）

→履行保証は消費者保護観点と受託支援の2つの面がある。現在、日事連の会員サービスワーキングでも検討されている内容である。日事連単位で進めていく事も検討している。（永島業務支援担当副会長）

○杉本副会長挨拶

次回委員会開催日 令和5年2月17日（金）15:00～16:30

以上

2021～2022 年度 第 1 1 回 一般社団法人神奈川県建築士事務所協会 (拡大) 統括委員長会 議事録			
開催日時	令和 5 年 2 月 1 7 日 (金)	会 場	Web 会議
出席者	会長 白井勇 副会長 大和田優 山口英生 杉本勝郎 永島優子 山口雄 小松正道 総財務委員長 三村邦彦 業務支援委員長 小山美智恵 ブロック支部委員長 平野武洋 指導委員長 齋藤清 (欠) 指導副委員長 吉田雅幸 青年部会運営委員長 横山尊重 会報誌編集特別委員長 小泉厚 マンション等の大規模修繕業務特別委員長 粕谷秀樹 「住・緑・家」運営特別委員長 渡邊靖 景観・まちづくり特別委員長 寺本勉 (欠) 災害時対策特別委員長 早川慶太 (欠) 木造専門委員長 山中信悟 専務理事 酒井弘幸 事務局 磯部崇 野口友弘 小林恵美		
○白井会長挨拶			
○司会進行 山口英生副会長			
・事前に配布された前回議事録を各自確認した。			
<議題>			
1. 令和 5 年度予算について 三村総財務委員長より、令和 5 年度予算書 (案) について説明された。 ・サポートセンターに係る予算について、各委員会からの要求額 400 万円に対し、神事協の負担額を 50 万円とした。別にサポートセンター事業について日事連に単位会組織強化支援事業へ 100 万円を申請する。 ・正会員会費収入の見込みを増額した。 ・景観・まちづくり委員会に、収支の調整の依頼し対応済み。 ・各委員会には減額依頼はしない。 ⇒3 月の理事会に予算 (案) を提出する。 また、今年度は赤字決算になりそうとの事が報告された。 大変厳しい収支となっている。会員は増えているが、耐震評価、適合証明技術者講習受講者、定期講習受講者等が減っている事がかなり大きい。 (白井会長)			
2. 来年度の委員会の重点項目について 各委員会より報告された。			
1) 総財務委員会 毎年新しい事に取り組んできた。(入会申込の web 化、入会金会費 6 ヶ月間無料、トライアル会員制度等) 内容をブラッシュアップし進めていく。			
2) 業務支援委員会 (仮称) サポートセンターの議論を進め、少しずつでも早く取り組む。講習会のアーカイブ化、年間スケジュールの分かり易さ等進めていく。			
3) ブロック支部委員会 新規開設「建築士事務所」講習会、地引網、支部長合同ブロック支部委員会について、内容を更に充実させ進めていく。			
4) 指導委員会 開設者講習会、実務者の為の設計・監理契約講習会の内容について検討し進めていく。 指導委員会の活動内容を知ってもらう為の方法を検討している。			
5) 青年部会運営委員会 来年度・再来年度に、支部の垣根を超え建築しごと展 (web) を開催する。 新規開設講習会で青年部会運営委員会をアピールし、若手のフォローアップを行っていく。			
6) 会報誌編集特別委員会 会報誌が今年度は昨年度より 4 ページ増え、賛助会・支部のページを増やし軌道に乗ってきた。			

来年度は年間特集として「良品計画」を取り上げ、企画等の特集を予定している。更に充実した誌面にしていく。

7) マンション等の大規模修繕業務特別委員会

マンション等の大規模修繕業務報酬基準を、今年度四会連合協定より出された契約書類に合わせ作成している。

各賛助会員の特化した技術等に合わせ講習会を開催し、賛助会との連携も図っていく。

8) 「住・緑・家」運営特別委員会

住宅、自治会館だけではなく、他の建物（児童福祉系）も対象とし進めていく。

県木連との意見交換会を木造専門委員会と行い 2025 年問題、省エネ、4 号特例等の最新情報を共有していく。

9) 景観・まちづくり特別委員会

相模原市との景観整備機構の指定を受け 4 年目となる。今年度は J-COM の動画企画に参加した。バスツアーも企画し進めていく。

湯河原、伊勢原との景観整備機構指定に向け活動していく。

コロナ禍で行っていなかった『まち歩き』も再開させる。

10) 災害時対策特別委員会

『建設型応急住宅の供給に係る業務委託』を県から受け行っている。

3 協定団体からヒアリング等を行い、バリアフリー化の検討を行っている。

11) 木造専門委員会

今年度は毎月のように講習会も行った。来年度も同じように開催する予定。

大幅に改定される 2025 年改正（案）が国交省より出ている。これに基づき基本講座を開催する。

木造の重要性、省エネ、伝統的構法についての講習会を行っていく。

来年度は委員を増員し充実を図る。

3. (日事連) 単位会組織強化支援事業について

広報情報委員会より『(仮称) 会員サポートセンター設立にともなうホームページ改訂事業』についての申請書（案）が提出され、内容について検討された。

⇒収支予算書の記載方法等について、白井会長と検討のうえ修正等を行い日事連に提出する事となった。

4. 「(仮称) 会員サポートセンター」について

業務支援委員会より「(仮称) 会員サポートセンター設立 (2023 年度前期)」に向けてのコンテンツ検討アンケートの結果が提出され、内容について永島担当副会長より説明された。

また、回答数が少なかった為、回答期日を 3 月 5 日まで延長し、回答ご協力をお願いを支部長宛に送付する事が報告された。

5. 令和 5 年度「建築士事務所の開設者研修会」について

『(仮称) 建築士事務所の「開設者」「管理建築士」のための管理研修会』実施検討案が業務支援委員会より提出され、内容について永島担当副会長より説明された。

令和 5 年度開催に向けて、ブロック支部委員会・指導委員会と共に検討を進めることとなった。

支出に収入の 10%の事務局経費をルール通り計上することとなった。

6. 各委員会報告

1) 総財務委員会

入会金及び会費 6 ヶ月無料キャンペーンを行っているが、入会された方へのフォローのお願いを改めて支部へ行いたい。

2) 業務支援委員会

J A A F - M S T の講習会を来年度 4 回行う。受講しやすいように曜日を変え開催する。

3) 指導委員会

相談内容の書物化等を行い、会員に情報提供しトラブルに巻き込まれないよう周知活動を行っていく。

4) 青年部会運営委員会

しごと展等、青年部会運営委員会の活動を新規講習の際にアピールするフライヤーを作成している。

5) 会報誌編集特別委員会

来年度は年間特集として「良品計画」を取り上げ、企画等の特集を予定している。

委員特集では、『神奈川の残しておきたい建築』で進める予定。

6) マンション等の大規模修繕業務特別委員会

2 月 28 日にドローンを使った調査方法の講習会を開催する。

「マンション等の大規模修繕関係業務の業務報酬算定方法」簡易作成ガイドラインを作成している。

7) 「住・緑・家」運営特別委員会

1月25日の賀詞交歓会前に行った講習会が好評だった。

日事連に採択された単位会組織強化支援事業として、「住・緑・家」作品集作成を行っている。表紙デザインコンペを開催しており締切は3月10日である。

8) 木造専門委員会

2月20日の委員会で次年度の取り組みについて検討する。

3月1日(水)に『中大規模木造建築物の実現に向けて』講習会、3月24日(金)に『伝統的建築の設計、伝統的建築の修復に関する実践例及び設計手法』講習会を開催する。

『文化財建造物保存修理工事(本禅寺本堂)完成までの道のり動画配信』開始に向け動いている。

9) ブロック支部委員会

3月6日の委員会で、「新規開設者講習会」と「建築士事務所の開設者研修会」のすみ分けについて検討する。新規開設者講習会受講者の入会金無料がなくなった為等、受講者減少していることについても検討する。

7. その他

1) 感謝状贈呈について

次回理事会(3月17日)で感謝状贈呈について諮ることとなった。

今年度は、神事協にご尽力いただいた日本 ERI (株) 寺越様に差し上げる方向で進めることとなった。

2) 会員講師料について

木造専門委員会が今回開催する講習会講師及び講習内容について営業色が強いと感じている。営業色が強い講習会講師料は不要ではないか。(三村総財務委員長)

→講師と打ち合わせも行い資料等の内容も確認している。営業ではなく会員の為になる講習会と理解している。(山中木造専門委員長)

→以前もこの議論はあったと思う。会員は皆建築士事務所を開設している。会員が講師を務めれば全て営業活動と理解されてしまうのか。それでは講習会が行えない。(山口雄副会長)

→講師が自分の持つ知識を会員等のために披露するには、現在の講師料も安いと考える。講師料は必要である。(大和田副会長)

⇒各委員会で都度検討し講習会を開催することとなった。

3) 木造専門委員会について

来年度から特別委員会とするよう次回理事会に諮る。(白井会長)

○小松副会長挨拶

次回委員会開催日 令和5年4月21日(金) 15:00 ～ 16:30